

第2次長久手市子ども読書活動推進計画 (素案)

長久手市

はじめに

読書は、子どもが人生をよりよく生きるうえで欠かすことができないものです。幼い子どもは絵本の読み聞かせで楽しい時間を得るだけでなく、自身へ注がれる愛情を感じることで、豊かな人間性を養うことでしょう。

読書の楽しさを知った子どもは、成長する段階で、たくさんの本と巡り会うことで、知的好奇心が旺盛になり、豊かな感受性を育みます。

子どもの時に身についた読書習慣は、大人になっても継続され、生きる上での羅針盤となる本との出会いをもたらすはずです。

また、本市は教育大綱の教育理念の一つに、多様性の尊重を掲げています。一人ひとりが大切にされる社会は、自分と違う他者の存在を認めあうことで成り立ちます。多様な人々の存在や価値観を認め合う心を育むうえで、読書は、大きな役割を果たします。

中央図書館のみならず学校や公的機関、各種団体、地域、そして家庭が、この「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を活用しながら、子どもたちを良き読書人へと導いていただくことを願います。

おわりに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力を賜った計画策定委員の皆様、アンケートやワークショップ等にご協力いただいた市民、ボランティアの皆様に、お礼申し上げます。

長久手市教育委員会 教育長 川本 忠

目 次

はじめに

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の経緯.....	1
2 計画の目的.....	1
3 計画の位置づけ.....	1
4 計画の対象.....	1
5 計画の期間.....	2
6 計画の目標.....	2
第2章 第1次計画の主な取組・実績・成果.....	3
基本目標1：家庭、地域、学校などにおける読書活動の推進.....	3
基本目標2：中央図書館などの子どもの読書環境の整備・充実.....	7
基本目標3：子ども読書活動に関する理解と関心の普及.....	9
第3章 施策体系.....	10
第4章 読書の好きな子どもが増えるための施策.....	12
基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校などにおけるこどもの読書活動の推進.....	12
1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進.....	12
2 中央図書館における子どもの読書活動の推進.....	12
3 児童館における子どもの読書活動の推進.....	13
4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進.....	13
5 学校における子どもの読書活動の推進.....	13
基本目標Ⅱ 子どもの読書活動の整備・充実.....	15
1 中央図書館のサービスの充実.....	15
2 児童館の読書環境の整備・充実.....	15
3 保育園、幼稚園の読書環境の整備・充実.....	16
4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実.....	16
基本目標Ⅲ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及.....	17
1 普及活動の充実.....	17

2	各種情報の収集・提供.....	17
3	優れた取組の照会.....	17
第5章	計画の推進.....	18
1	計画周知.....	18
2	関係機関との連携協働.....	18
3	計画の実施状況の点検・評価.....	18

資料編

資料1	用語解説.....	19
資料2	ワークショップ概要.....	21
	1回目 基本テーマ：「子どもと読書」家庭や地域でできること....	22
	2回目 基本テーマ：子どもに読書の楽しさを伝えるためには.....	25
	ニュースレター.....	28
資料3	第2次子ども読書活動推進計画基礎調査報告書.....	32
資料4	主な施策と取組関係部署一覧.....	74
資料5	第2次長久手市子ども活動推進計画策定委員会要綱.....	76
資料6	第2次長久手市子ども活動推進計画策定委員会委員一覧.....	78
資料7	第2次計画策定の経緯.....	79

◎本文中「*」のマークをつけた用語は、「用語解説」を記載しています。

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の経緯

国は、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、読書を通じて子どもの健やかな成長に資することを目的に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を平成13年に制定しました。そして、同法の第9条第2項で、市町村は、子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならないと規定しました。

これに基づき、国ならびに愛知県の計画に沿って、本市では「長久手市子ども読書活動推進計画」を平成24年度末に策定し、25年度から事業を展開してきました。

第2次計画では、第1次計画を継承しつつ、市民アンケート、関係団体ヒアリング、ワークショップなどの結果を踏まえて、第2次計画を策定するものです。

2 計画の目的

子どもが自主的に本に親しみ、読書の好きな子どもが増えることを目的とし、3つの基本目標を掲げ、読書環境の整備、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図ります。そして、中央図書館と関係する機関と連携・協力を深めて、本市の子ども読書活動を推進する基本的な方向性を示し、その施策を総合的に推進します。

3 計画の位置づけ

第5次総合計画を背景に、教育大綱の理念に基づき、教育振興基本計画（策定中）の部門別計画に位置づけられます。

4 計画の対象

0歳から18歳までとします。また、保護者等や子どもの読書活動の推進にかかわる団体なども対象とします。

5 計画の期間

平成30年度から平成34年度までのおおむね5年間とします。

6 計画の目標

I 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、家庭生活や学校生活、地域社会などとの日常的な関わりを通して育まれます。そのため、子どもの身近にいる大人が役割を認識し、子どもの読書の機会の充実を図ることが大切です。子どもの発達段階に応じて、関係者がそれぞれの立場から、子どもが自主的に本に親しむことができるように、様々な取組みを推進します。

II 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが読書の楽しさや喜びを知るためには、発達段階に応じた読書環境が整っていることが重要です。子どもが本を手に取りやすく、いつも身近に本がある読書環境の整備・充実に努めます。

III 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの読書活動の意義や重要性について、子どもに関わるすべての人々が理解と関心を持つことが大切です。

そのため、中央図書館が主体となり普及事業を積極的に進め、子どもの読書活動を広めていきます。

第2章 第1次計画の主な取組・実績・成果

基本目標1：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

【家庭における子どもの読書活動の推進】

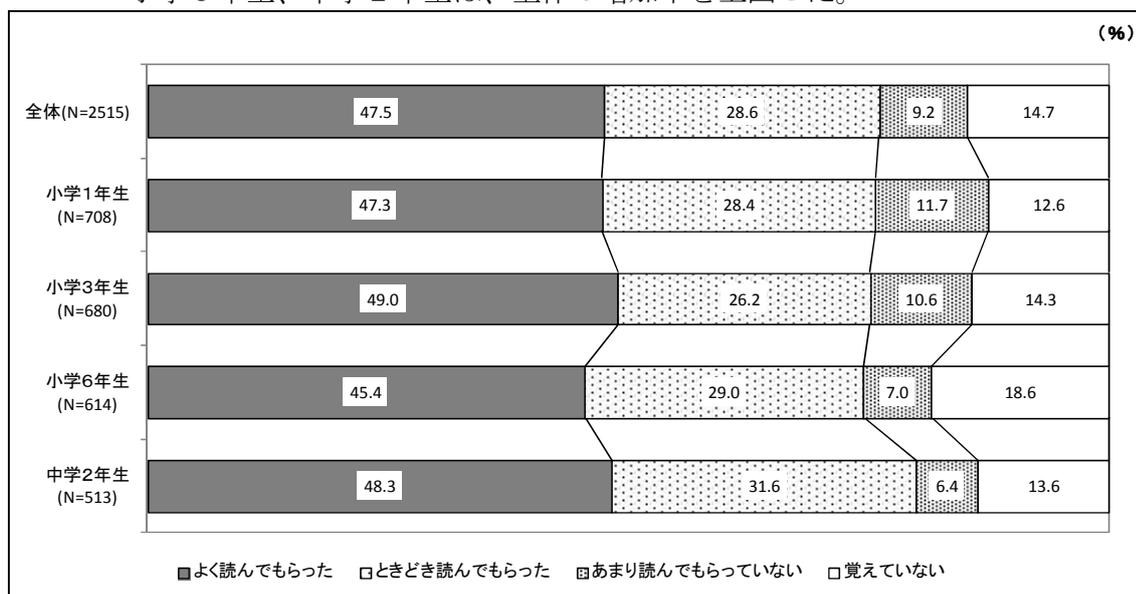
主な取組	主な実績
<p>◆乳幼児期における読書活動を支援するため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート」を平成25年度から中央図書館で実施。</p> <p>◆保護者が絵本などの読み聞かせを行い、本に親しむ家庭環境をつくるのが大切であることを啓発するため「おはなし会」を実施。</p>	<p>●ボランティアによる読み聞かせや対象者にブックスタートパックの配付(絵本1冊、おすすめ絵本リスト、コットンバッグ)を実施。</p> <p>【ブックスタートパック配付数】</p> <p>平成26年度 316人 平成27年度 348人 平成28年度 386人</p> <p>●乳幼児から小学生までを対象とした「おはなし会」を実施。</p> <p>【おはなし会参加者数】</p> <p>平成26年度 62回 2,943人 平成27年度 64回 3,254人 平成28年度 60回 3,509人</p>

主な成果 「子どもの読書についてのアンケート(小学1・3・6年生及び中学2年生)」集計結果

質問8：幼稚園や保育園のころ、家の人に本を読んでもらいましたか？

平成23年度調査と比較すると、「よく読んでもらった」は全体的に1割程増えた。

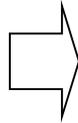
小学6年生、中学2年生は、全体の増加率を上回った。



【中央図書館における子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆地域社会における図書館の役割などを学び、中央図書館が子どもたちにとって一層身近な存在になるよう、小学生の「図書館見学」や中学生の「職場体験」を実施。



主な実績

●小学3年生の「図書館見学」の実施。

【図書館見学者数】

平成26年度	604人
平成27年度	626人
平成28年度	644人

●中学2年生の「職場体験」の実施。

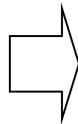
【職場体験者数】

平成26年度	11人
平成27年度	8人
平成28年度	11人

【児童館などにおける子どもの読書活動の推進】

主な取組

◆児童館などの図書室を充実するために、児童館と中央図書館が連携をとり、児童館の古い本の廃棄、対象年齢に適した本の配置換えや、中央図書館から本の団体貸出をするなど子どもたちに魅力ある図書室作りを実施。



主な実績

●児童館6館のうち4館の図書室のレイアウト調整、団体貸出の本の入替え等を定期的実施。

【児童館への団体貸出冊数】

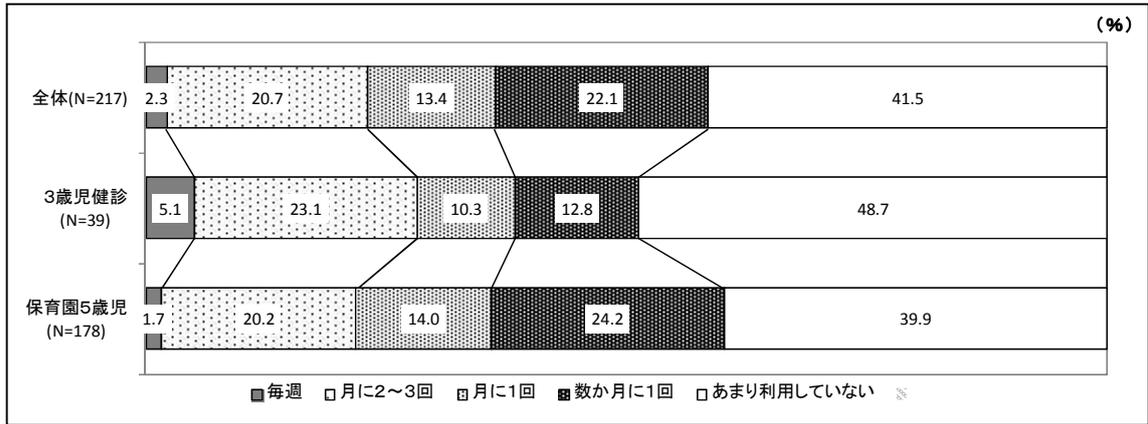
平成26年度	1,007冊
平成27年度	1,120冊
平成28年度	918冊

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問4：中央図書館や児童館などの図書室をどの程度利用していますか？

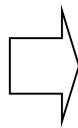
平成23年度調査と比較すると、「あまり利用していない」が約2割ほど減少し、全体的に利用が増加した。特に、3歳児は約2倍へ増加した。



【ボランティア団体との協働の推進】

主な取組

- ◆ボランティアグループの育成と技術向上を図るため、ボランティアの養成講座を企画する。
- ◆読み聞かせボランティアへ図書の貸出（団体貸出）をする。



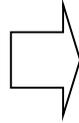
主な実績

- ボランティアの養成講座を年1回実施。
【ボランティア登録者数】
平成26年度 56人
平成27年度 73人
平成28年度 76人
- ボランティア団体へ団体貸出を実施。
【ボランティア団体への団体貸出冊数】
平成26年度 448冊
平成27年度 216冊
平成28年度 422冊

【学校における子どもの読書活動の推進】

主な取組

- ◆学校へ中央図書館の図書の貸出を促進する。
- ◆学校で読み聞かせやブックトークなど、児童生徒が読書に興味をもつ機会を提供し、自主的に読書習慣が身に付くよう指導する。



主な実績

- 中央図書館から学校へ、学級文庫や調べ学習に必要な図書の貸出を実施。

【中央図書館から学校への団体貸出冊数】

平成26年度	9,447冊
平成27年度	10,360冊
平成28年度	10,741冊

- 児童生徒の読書習慣の促進を図る。

【学校図書館の貸出冊数】

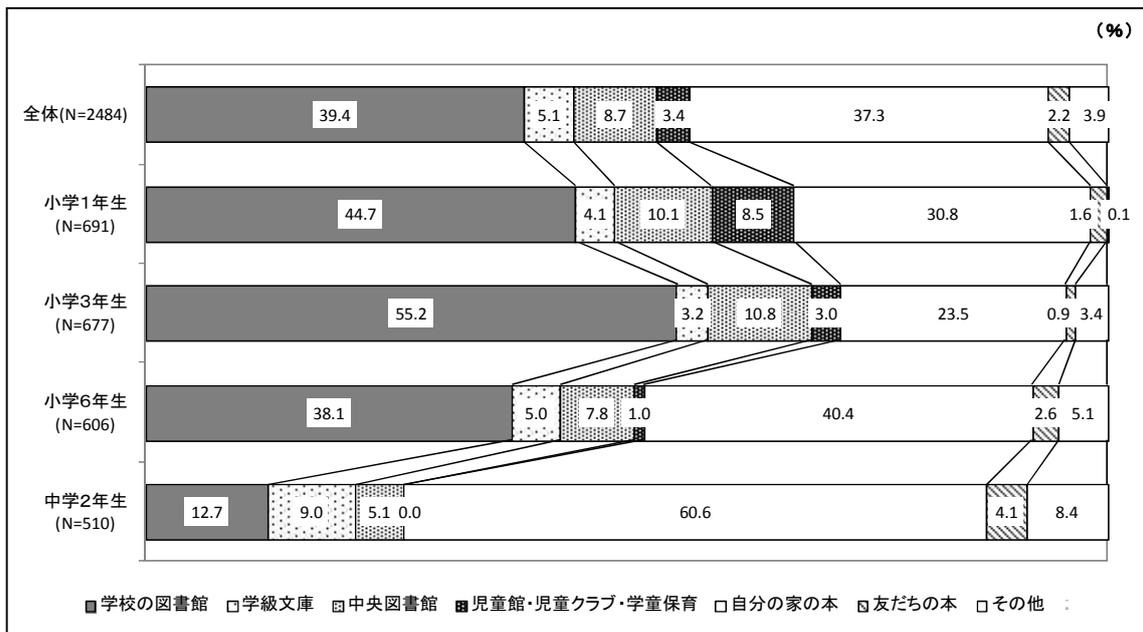
小学校	
平成27年度	142,408冊
平成28年度	146,926冊
中学校	
平成27年度	7,097冊
平成28年度	8,653冊

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学1・3・6年生及び中学2年生）」集計結果より

質問4：どこの本をよく読みますか？

平成23年度では、「自分の家の本」が最も多かったが、平成29年度では、「学校の図書館」が最も多く、「学校の図書館」の割合は、全体では約6割増加し、特に小学3年生で顕著に伸びた。

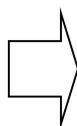


基本目標2：中央図書館などの子どもの読書環境の整備・充実

【中央図書館のサービスの充実】

主な取組

◆児童書架スペースの整備とともに、子どもたちの読書環境づくりを図り、中央図書館利用の増加に努める。



主な実績

●児童書架スペースに対象年齢別に本を配置し、読書環境を整えた。

【18歳までの貸出冊数】

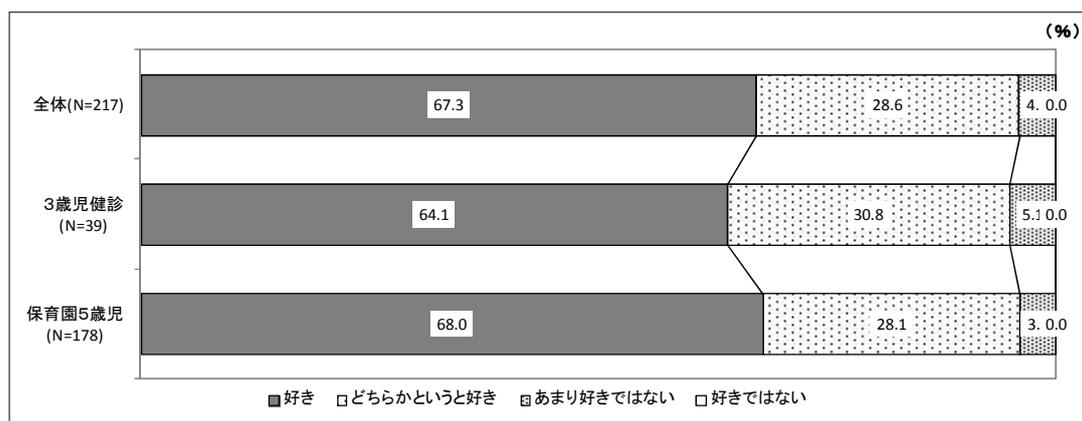
平成26年度	137,705冊
平成27年度	145,187冊
平成28年度	149,211冊

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問2：お子さんは本が好きですか？

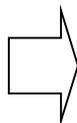
平成23年度調査と比較すると、「好き」が全体的に3割ほど増えた。特に3歳児は約4割増えた。



【学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実】

主な取組

- ◆学校連携事業をより一層強化し充実させるために、学校連携司書の増員を図る。
- ◆学校連携司書が学校で推薦した本の情報を中央図書館の利用者にも紹介し、情報を共有する。



主な実績

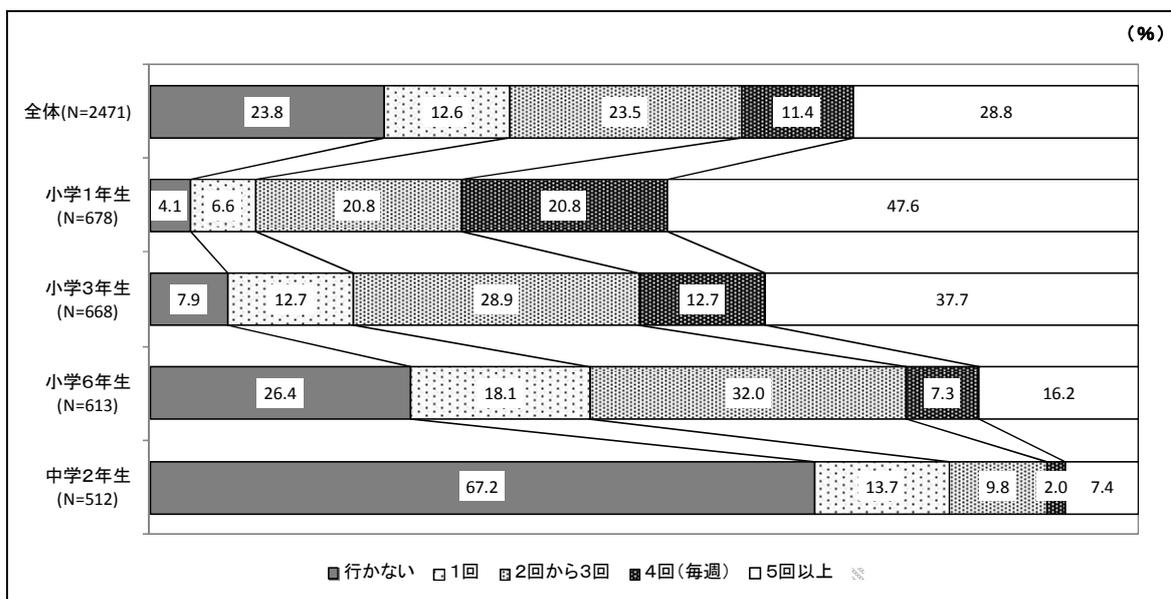
- 小学校6校、中学校3校の計9校を、学校連携司書が分担して巡回した。
 - 【学校連携司書数】
 - 平成26年度 3人（1人増）
 - 平成27年度 4人（1人増）
 - 平成28年度 5人（1人増）
- 中央図書館の児童書架に学校連携司書のおすすめ本のテーマ展示を実施。
 - 【テーマ展示の回数】
 - 平成26年度 6回
 - 平成27年度 7回
 - 平成28年度 7回

主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（小学1・3・6年生及び中学2年生）」集計結果より

質問5：あなたは、1か月のうち学校の図書館へ何回行きますか？

平成23年度調査と比較すると、「行かない」が1～2割ほど減少し、「5回以上」が平均値で4割ほど増加した。特に、小学3年生の「5回以上」は9割増え、著しい増加となった。



基本目標3：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

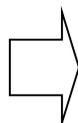
【「子ども読書の日」や「読書週間」などにおける啓発事業の実施】

主な取組

◆子どもの読書活動の大切さを伝えるきっかけとして、児童書講演会や「子ども読書の日」に合わせた事業を保護者や子ども向けに実施。

主な実績

- 児童書講演会等を実施。
【講演会等の参加者数等】
平成26年度 52人
平成27年度 76人
平成28年度 56人
- 「子ども読書の日」いちにおはなし会を実施。
【おはなし会参加者数】
平成26年度 108人
平成27年度 159人
平成28年度 157人

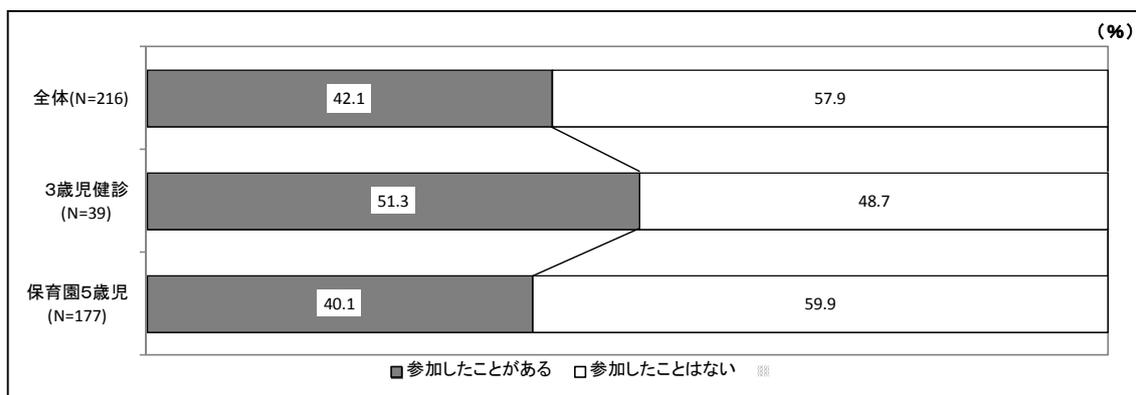


主な成果

「子どもの読書についてのアンケート（3歳児・5歳児の保護者）」集計結果より

質問5-1：図書館や児童館などでおはなし会が開催されていますが、参加されたことはありますか？

平成23年度調査と比較すると、「参加したことはない」が全体的に1～2割ほど減少し、「参加したことがある」が2割ほど増えた。



第3章 施策体系

目的

方 策

読書の好きな子どもが増える

基本目標

I 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

2 中央図書館における子どもの読書活動の推進

3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進

4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

5 学校における子どもの読書活動の推進

II 子どもの読書環境の整備・充実

1 中央図書館のサービスの充実

2 児童館の読書環境の整備・充実

3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実

4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実

III 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

1 普及活動の充実

2 各種情報の収集・提供

3 優れた取組の紹介

取組

(1)乳幼児期からの読書活動の支援
(2)家庭読書の推進
(3)地域の読書活動の支援

(1)良質な図書館資料の充実
(2)レファレンスサービスの充実
(3)中央図書館がより身近な存在となる事業の充実
(4)図書ボランティアとの協働
(5)児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施

(1)中央図書館資料の貸出の促進
(2)読み聞かせボランティアとの連携

(1)保護者などに読書活動の大切さを周知
(2)読書と遊びを結びつけた取組の充実

(1)学校図書館の利用促進
(2)学校連携司書による調べ学習の補助
(3)学校連携司書による読書案内
(4)学校連携司書による企画展示

(1)子どもの発達段階に応じた読書環境づくり
(2)中高生向けの図書資料の充実、読書環境づくり
(3)ホームページを始めとした情報検索システムの整備
(4)障がいのある子どもへのサービスの充実
(5)図書館から遠方の地区に住む子どもたちへの読書環境づくり

(1)児童館利用者への本の紹介
(2)児童館図書室の環境整備

(1)園内の図書コーナーの整備、充実
(2)団体貸出の充実

(1)学校図書館の環境整備
(2)中央図書館資料の利用促進
(3)学校連携司書による中央図書館の行事企画
(4)学校図書館と中央図書館の情報共有

(1)読書手帳の普及
(2)「子ども読書の日」などの普及
(3)保護者への周知
(4)各施設などで読みきかせイベントなどの実施

(1)図書情報などの収集・提供

(1)ボランティアなどの活動を紹介

第4章 読書の好きな子どもが増えるための施策

基本目標Ⅰ：家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

(1) 乳幼児期からの読書活動の支援

乳幼児期に初めて本と出会うきっかけをつくるため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート」などの事業を行います。

(2) 家庭読書の推進

家庭での読書の機会を増やすため、年齢に応じた本の情報を提供し、本に親しみやすくします。

(3) 地域の読書活動の支援

ボランティアが地域での活動の際に必要な本をボランティア団体へ貸出し、地域の読書活動を支援します。

2 中央図書館における子どもの読書活動の推進

(1) 良質な図書の充実

専門的視点で司書が選定した良質な図書の収集を継続します。

(2) レファレンスサービスの充実

中央図書館司書と学校連携司書が協働でレファレンスに取り組み、児童書のレファレンスサービスをより一層充実させます。

(3) 中央図書館がより身近な存在となる事業の充実

子どもたちの関心やニーズに合わせた本のテーマ展示や飾り付けなどの雰囲気作りをすることで、本への興味を促し、中央図書館がより身近な存在となるように努めます。

(4) 図書ボランティアとの協働

読み聞かせや本の修理などのボランティアを育成し連携します。

(5) 児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施

保護者へ児童書の魅力や楽しさを伝えるために、おはなし会や図書館講座を始めとしたイベント等を企画、開催します。

3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進

(1) 中央図書館からの図書貸出促進

中央図書館から児童館に団体貸出をすることで、良質な本を提供し、貸出を促します。

(2) 読み聞かせボランティアとの連携

ボランティアによる児童館での読み聞かせを推進します。また、読み聞かせに適した絵本の提供を充実します。

4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

(1) 保護者などに読書活動の大切さを周知

園を通じて、本の情報を保護者へ伝え、絵本の魅力を広めていきます。

(2) 読書と遊びを結びつけた取組の充実

園での読み聞かせに、カルタなど遊びの要素を入れた取り組みを充実させ、ふれ合いの中で楽しい体験ができるように支援します。

また、中央図書館からの団体貸出によって、読み聞かせに適した絵本を増やします。

5 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 学校図書館の利用促進

中央図書館から小中学校へ学校連携司書を派遣し、司書教諭と協働して学校図書館を活性化させ、利用を促します。また、学校連携司書は、子どもたちが学校図書館をより身近に感じることができるよう、心地よい雰囲気づくりに努めます。

(2) 学校連携司書による調べ学習の補助

学校連携司書が教職員と連携し、調べ学習のための本を提供することで、学習を支援します。

(3) 学校連携司書による読書案内

学校連携司書が、読み聞かせやブックトークなどで、読書の楽しさを伝えます。また、子どもの読書相談に応じ、子どもの興味、関心のある本を紹介します。

(4) 学校連携司書による企画展示

学校連携司書が、学校図書館でテーマ展示などの企画展示をすることで、読書への興味を高めるきっかけづくりをします。

目指す目標値

項目	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022 年度
中央図書館の児童図書の貸出冊数(年間)	149, 211冊	180, 000冊
学校図書館の図書の貸出冊数(年間)	155, 579冊	180, 000冊

基本目標Ⅱ：子どもの読書環境の整備・充実

1 中央図書館のサービスの充実

(1) 子どもの発達段階に応じた読書環境づくり

対象年齢に応じた本の整備を図り、子どもが自ら本を選ぶ楽しさを実感できる棚や、くつろいだ雰囲気的空間づくりをします。

(2) 中高生向けの図書の充実、読書環境づくり

中高生向けの本を収集し、この世代用に特化した書棚をつくります。また、中学・高校との情報交換を図り、ニーズを把握していきます。

(3) ホームページを通じた情報発信の充実

誰もが見やすくわかりやすいホームページを作成し、本の紹介を始め、各種イベントの開催などの情報提供に努めます。また、子ども向けページの充実を図ります。

(4) 障がいのある子どもへのサービスの充実

点字絵本やさわる絵本などを収集し、障がいのある子どもも楽しむことができるサービスを充実します。

(5) 中央図書館から遠方の地区に住む子どもたちへの読書環境づくり

中央図書館から遠方の地区に住む子どもの読書環境を向上させるために、学校や児童館を始めとした諸施設への団体貸出を増やし、協力、連携を図ります。

2 児童館の読書環境の整備・充実

(1) 児童館利用者への本の紹介

児童館に来館する子どもから保護者までを対象に、おすすめ本のブックリストなどを作成し、情報提供します。

(2) 児童館図書室の環境整備

児童館図書室の本の配置やレイアウトの調整、新規に購入する本や除籍本の選定に中央図書館が協力をします。また、司書が選定した本を中央図書館から団体貸出をすることで、図書室の魅力を高めます。

3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実

(1) 園内の図書コーナーの整備、充実

園の図書コーナーを充実するため、年齢に応じたおすすめ本のブックリストの提供や読み聞かせに適した絵本などを中央図書館から紹介します。

(2) 団体貸出の充実

中央図書館の団体貸出カードを全ての園で活用するように周知し、団体貸出を促します。また、司書が絵本の選定に関するレファレンスを受けることで、園の職員を支援します。

4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実

(1) 学校図書館の環境整備

学校図書館の本の配置やレイアウトの調整、購入などの本の選定に中央図書館が協力し環境整備を図ることで、学校図書館が子どもにとって魅力的で安らぐ場となるように努めます。

(2) 中央図書館資料の利用促進

中央図書館から学級文庫用として団体貸出をすることで、良質な本を子どもの身近な場所へ提供し、子どもの読書環境を充実させます。

(3) 学校連携司書による中央図書館の行事企画

学校連携司書が中央図書館で読み聞かせやブックトークなどのイベントをすることで、保護者を含めた幅広い年齢層へ読書の楽しさを伝えます。

(4) 学校図書館と中央図書館の情報共有

学校連携司書が学校現場での実践を活かし、中央図書館利用者へ本の紹介などをします。学校と中央図書館の司書が互いに本の情報を共有し、選書に役立てます。

目指す目標値

項目	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022年度
保育園・幼稚園への団体貸出の冊数(年間)	148冊	500冊
児童館図書室への団体貸出の冊数(年間)	918冊	1,200冊

基本目標Ⅲ：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

1 普及活動の充実

(1) 読書手帳の普及

読書履歴を残すことで、楽しみながら読書意欲を高めるため、読書手帳の普及に努めます。

(2) 「子ども読書の日」などの普及

「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」などに合わせて読書に関するイベントや企画展示を開催します。

(3) 保護者への周知

中央図書館を始めとした各施設での読書活動を保護者へ広く周知し、子どもの読書の機会を増やします。

(4) 各施設などで読みきかせイベントなどの実施

中央図書館外での読み聞かせイベントなどを通し、読書の大切さを広めるよう広報に努めます。

2 各種情報の収集・提供

図書情報などの収集・提供

ホームページや広報を活用し、子どもの読書活動に関連する関係機関の情報を提供することで、子どもの読書活動を幅広く推進します。

3 優れた取組の紹介

ボランティアなどの活動を紹介

図書ボランティアの活動を紹介、奨励することでボランティア活動の活性化、生きがいをづくりにつなげます。

目指す目標値

項目	現状値 H28(2016)年度	目標値 2022年度
おはなし会などの読み聞かせイベント参加者数(年間)	3,666人	4,800人
ボランティアの活動者数(年間)	76人	100人

第5章 計画の推進

1 計画の周知

計画の推進にあたり、子育て中の家庭、学校、ボランティア団体をはじめ多くの関係者の理解と協力が必要なことから、市広報やホームページへの掲載、各種施設等へのアウトリーチ事業を実施して広く周知と理解に努めます。

2 関係機関との連携・協働

子ども読書活動の推進には、関係機関や団体などがその重要性を認識し、相互に連携・協働しながら取り組むことが重要です。中央図書館、学校図書館、図書ボランティアなど「子ども」と「読書」に携わる関係者それぞれが各自の役割を果たしていくため、相互の連携を図ります。

3 計画の実施状況の点検・評価

本計画の適切な推進を図るため、学識経験者、社会教育関係者などで組織する図書館運営協議会において、計画の進行管理、評価を行い、結果を公表します。

資料編

用語解説

- ・ **おはなし会**
幼児から低学年を対象に、絵本や紙芝居の読み聞かせ等を行う図書館の児童向けの催し。
- ・ **子ども読書の日**
4月23日。子どもの読書活動について理解と関心を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行えるよう、平成13年に交付された「子どもの読書活動の推進に関する法律」第10条により定められた。
- ・ **こどもの読書週間**
4月23日から5月12日まで。公益社団法人 読書推進運動協議会が昭和34年から始めた子どもの読書推進事業。
- ・ **司書教諭**
学校図書館の専門的職務に携わる資格を持った教員。平成15年度から12学級以上の全ての学校に配置することが義務づけられている。
- ・ **調べ学習**
知りたいこと、興味を持っていることについて、図書や現地見学、実験、観察など、いろいろな方法で調べ、解決を図っていく学習。
- ・ **団体貸出**
市内で組織登録された読書グループ等の団体に1か月30冊まで本を貸出しする中央図書館のサービス。
- ・ **読書週間**
10月27日から11月9日まで。公益社団法人 読書推進運動協議会が昭和22年から始めた読書の普及、推進と出版文化の向上を目標とする事業。
- ・ **ブックスタート事業**
赤ちゃんと保護者が、絵本を介して楽しく心ふれあうひとときを持つことの大切さを伝える事業。

- ブックトーク**

一定のテーマを決めて、複数冊の本の内容を工夫を凝らして照会し、本の面白さや読書意欲を起こさせる活動。
- レファレンスサービス**

利用者からの資料に関する問い合わせや、調査・研究に必要な図書資料を提供する図書館サービス。
- テーマ展示**

あるテーマに基づいた本を複数冊選び、手に取りやすい場所などに表紙を出す形で展示すること。
- 学校連携司書**

児童生徒への読み聞かせや朝読書、学校図書館の運営業務、教員の調べ学習の補助などを行うために、中央図書館から派遣する嘱託職員。
- 点字絵本**

指で点字部分を触れて読むことができる絵本。絵の部分にも図柄を示す点字が施されている。
- さわる絵本**

絵本を原本にして、布や皮革、毛糸などの素材を用いて、台紙に貼り付けた絵本。指でさわって読むことができる絵本。
- 学級文庫**

児童、生徒の読書習慣を養うために、学校の各教室に置かれる蔵書。
- 読書手帳**

本を借りた日、本の名前、本を書いた人などを記入することができる読書記録用の手帳。

ワークショップ概要

市民の意見を広範に集めるため、ワークショップの参加者を、「市民主体の計画づくり」応募者への案内やホームページ、館内掲示で公募し、テーマ別に2回開催した。

1 対象

18歳以上の市内在住・在勤・在学者

2 開催日時

1回目 平成30年1月27日（土）14：00～16：00

2回目 平成30年2月 3日（土）10：00～12：00

3 場所

中央図書館 AVルーム

4 テーマ

下記の個別テーマごとに班に分かれて、意見を出し合った。

1回目 基本テーマ：「子どもと読書」家庭や地域でできること

個別テーマ A班「家庭」 B班「児童館」 C班「保育園・幼稚園」

2回目 基本テーマ：子どもに読書の楽しみを伝えるためには

個別テーマ A班「図書館」 B班「学校」 C班「総合」

5 重要な意見の抽出（重要シール）

模造紙に書かれた、他班の意見のうち、重要だと感じた項目に各参加者がシールを貼る手法で、重要な意見を抽出した。

1回目 基本テーマ:「子どもと読書」家庭や地域でできること

A班「家庭」 家庭で本を楽しむ方法を年齢別に考えてみよう (参加者6人)

■重要とされた意見 (参加者の「重要シール」が貼られたもの:枚数)

- ・関心→本へ (映画→本) : 4枚
- ・外に向かって 身の回りの関心: 2枚 (季節、行事、食べ物、草花、虫、動物、乗り物)
- ・興味に向かって 本人の気持ちにそって (人との関わり) : 1枚
- ・お母さん (お父さん) と一緒: 1枚

■意見一覧

『家庭で本を楽しむ方法を年齢別に考えてみよう』

区分	年齢	個別意見
関心→本へ	中学生 中・高校生	話題の本、映画の原書、洋書のベストセラー 本を読む時間をつくる マンガを否定しない
外に向かって 身の回りの関心	就学前 幼稚園 幼・保育園	どんな本が子どもの成長に必要なか知ること 良質な本を図書館に行くことにより知ることができる ゲームで遊ぶより絵本が楽しいと思うにはどうしたらよいか 季節に関したこと 春夏秋冬 寝る前や決まった時間に本を読む 外の世界へ広がっていく、知識の増える本 日々の疑問を解決できる本 赤ちゃんの頃の本を継続しつつ、安心、冒険、好奇心をくすぐるもの
興味に向かって	幼稚園児 小学校低学年 小学校高学年 小学生	本人の好きな本をまずいっしょに読む 親の好きな本をすすめてみる 人との関わりがでてくる 喜怒哀楽 勉強、スポーツ、遊び等バランスと時間の確保が難しい 歴史上の人物に対する興味を示したらそれに関連する本 時間の確保が困難なので、本を読む時間がリラックスするものになる 選書/どんな本を選んであげたら良いか良質な本を知りたい 図書館からの本の推薦
お母さん (お父 さん) と一緒 色・音・動き など	赤ちゃん ・年少 ・年中	手遊びや歌 生まれたばかりの赤ちゃんを持つ親に、テレビ、スマホなどのメディアより、絵本を読み聞かせてあげたほうが成長にメリットがあることを伝える 言葉を理解できない時期→絵や音楽 話題の本やおすすめの本を親が知る/読み聞かせ→読み聞かせの方法を親に教える場 お母さんとの時間が好きな世代 内容→安心するもの 絵の美しいもの 絵に動きのあるもの ⇒0歳から、とにかく早い方が良い 字が少なく、明るい絵の本 どんな時代でも 心に残る本

1回目 基本テーマ:「子どもと読書」家庭や地域でできること

B班「児童館」 児童館に来る子どもたちが本に親しむためには？ (参加6人)

■重要とされた意見（参加者の「重要シール」が貼られたもの：枚数）

- 読み聞かせできっかけづくり：8枚
- 本を読む環境づくり：3枚

■意見一覧

『児童館に来る子どもたちが本に親しむためには？』

区分	個別意見
読み聞かせで きっかけづくり	子どもによる朗読/大きい子に読み聞かせをさせる（1：1でよい） 親子で読み聞かせ会（読み合い） 一緒にシリーズものを少しずつ読んでいく 紙芝居の読み聞かせ、CDなどで作品の読み聞かせ
本の読む環境 づくり	スマホは受付で預かる 感想は聞かないこと 子どもたちや親たちからおすすめ本を展示するコーナーを定期的につくる 本の良い所を話す時間をつくる 中学生も読むことができる場所と本の選定をする 親へ子どもにおすすめの本を紹介する/本のおすすめをする人がいる日をつくる
Music	歌のない音楽を流す（BGM）
長久手とともに	長久手の事を書いた本の紹介（小牧・長久手の戦い、その土地に関わる本）
本のおすすめと 子どもたちのリ クエスト	季節の本の紹介/季節に応じた本を手に取りやすい場所に置く テーマ展示/本棚の本を定期的に交換する 幼・小・中 各学校の学生の推薦図書/本のあらすじなど書き、ふせんなどで貼ってみる 本の相談コーナー おすすめの本紹介
その他	本の感想を書いて貼る掲示板を置いてみる。/本の案内<POP、便り、面出し>/一冊の本からうかんだことを絵に書くなどし、一つの作品をつくっていく

1回目 基本テーマ:「子どもと読書」家庭や地域でできること

C班「保育園・幼稚園」 保育園、幼稚園で子どもたちへ本の魅力を伝えるには？
(参加5人)

■重要とされた意見（参加者の「重要シール」が貼られたもの：枚数）

- ・環境：8枚
- ・子どもと遊び：3枚
- ・読み聞かせ：1枚

■意見一覧

『保育園、幼稚園で子どもたちへ本の魅力を伝えるには？』

区分	個別意見
環境	絵本を読む時間の確保/絵本を読む時間の習慣づけ 子どもの目の届く所に本/目の届く所に本を置く 新しい本を常に入れておく 保育園での貸出（全園） 絵本の部屋を作る 小さい頃から絵本に触れることができるようにする まんがの本でも良い 各教室の絵本コーナーの充実させる いつでも本を読める状態にする
子どもと遊び	絵本から遊びへつなげられるおもしろさを見つける 百人一首 カルタ
読み聞かせ	職員による読み聞かせ/絵本の読み聞かせ/先生の読み聞かせの時間を設ける
家庭	保育士が絵本について学ぶ機会を持つ/絵本の魅力を保護者に伝える/先生方が音読のすばらしさに気づくこと 習慣をつけさせること 父親の役割も与える 保護者による読み聞かせ 親への動機付け 家で絵本とすごせる時間の確保
最終目標は「輝く子ども」	子どもが絵本を見る時の表情は最高！！

2回目 基本テーマ:子どもに読書の楽しみを伝えるためには

A班「図書館」 子どもの図書館利用を増やすには？

(参加5人)

■重要とされた意見 (参加者の「重要シール」が貼られたもの:枚数)

<ul style="list-style-type: none"> ・親との関係: 5枚 ・中央図書館に来てもらうために: 4枚 ・雰囲気づくり: 3枚 ・中央図書館でのイベント: 2枚 ・交通手段: 2枚

■意見一覧

『子どもの図書館利用を増やすには?』

区分	個別意見
親との関係	親の好みをおしつけない 親が本を好きになる 本を大切に扱うマナーも幼い時から教える 幼い頃からの習慣 図書館に来て本の楽しさを覚える
中央図書館に来てもらうために	図書館が近くにあるととてもよい 移動図書館を考えてみては? 学校から図書館の見学 市の施設(児童館など)以外にも図書館の本を置く
雰囲気づくり	口コミで図書館の対応のよさを宣伝する 図書館で子どもがゆっくり読める所がほしい(子ども書架あたり) 図書館に来てよい印象を持ってもらう 子どもの興味を持つかざりつけなどを行う 図書館がよい雰囲気をつくる(BGM等)
図書館でのイベント	おはなし会などに参加して本を知る イベントの企画 科学実験 低年齢 母親が読み聞かせ 宿題支援 中高生に企画してもらう 大型の絵本を使ったおはなし会 人形劇 図書館のサイトで良書のアピールをする おはなし会や映画の上映会 利用者(子ども)による本の紹介
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・Nバスがもっと活用できるように(図書館に行くために) ・駐車場を増やす

2回目 基本テーマ:子どもに読書の楽しみを伝えるためには

B班「学校」 学校連携司書や学校ができること、求められていること
(参加5人) ことは?

■重要とされた意見 (参加者の「重要シール」が貼られたもの:枚数)

<ul style="list-style-type: none"> ・人が居ること: 4枚 ・発信: 3枚 ・協力: 3枚 ・予算: 2枚 ・いいこと!! : 2枚
--

■意見一覧

『学校連携司書や学校ができること、求められていることは?』

区分	個別意見
人が居ること	司書教諭が学校図書館にいつもいること 学校司書が常駐する 専任の学校司書を配置 (毎日誰かがいる学校図書館) 学校図書館ならではの出来る事を発見する 司書と子どもがしっかりと会話し、コミュニケーションをとる 学校ごとにボランティアの常駐
発信	読書の重要性を大人 (先生) も子どもも知る 行事や季節ごとのお勧め本コーナー クラスごとで図書館利用の機会 図書館通信 家庭への情報発信 司書教諭との連携
協力	読み聞かせ本の選書 司書教諭、学校連携司書が多忙にならないようにボランティアの検討 PTA図書ボラとの連携 開かれた学校 ボランティアの利用 ボランティアが多くいるといい!!
図書	図書選定 児童・生徒の意見希望を取り入れる
快適さ (いいこと)	書架整理をきちんとする 子供が図書館に居られる 居場所作り

2回目 基本テーマ:子どもに読書の楽しみを伝えるためには

C班「総合」 読書活動の大切さをPRする取組を考えてみよう (参加6人)

■重要とされた意見（参加者の「重要シール」が貼られたもの：枚数）

<ul style="list-style-type: none"> ・イベント：7枚 ・広報 HP：5枚 ・バザー：3枚 ・キャッチコピー：1枚

■意見一覧

『読書活動の大切さをPRする取組を考えてみよう』

区分	個別意見
イベント	市のショッピングセンターに出張図書館イベントでPR いろいろなところで本をおく 絵本と紙しばいの読み聞かせイベント、公園でも 図書館で、読み聞かせのイベントを土日に関き、年齢別などに分けて行う 家の中だと、「お母さん（お父さん）オススメ」などのポップをつける 市民まつりに図書館ブースを設ける 若い親子連れが集まるような市内のイベントで図書館に来てもらうためのPRする ストーリーの短い本をたくさん読んであげると何冊も読める 司書が学校にきて、いろいろよみかかせの授業を作り、生徒に本への興味をもたせる 市内の37ヶ所の公園に毎月1回移動図書館バスを派遣 図書館の職員が学校などへ出かける（アウトリーチ：ホームワークの時間活用）
広報 HP	メディアの活用 広報・HP 新聞（ホームニュース） ジャーナル誌発行 ひまわりホームページでもわかりやすく紹介する 市の広報に図書館特集 コーナー紹介（終活の本 e t c）
バザー	市民から本を寄付してもらい、一冊50円の寄付をもらい、それを収益とする。 図書館でバザーをする
親子	お母さんが本をみて笑っていたり楽しんでいたりすると、子どもも、楽しんでよめると思う！！ お父さんとお母さんと絵本を一緒に楽しみましょう
キャッチコピー	キャッチフレーズをつける 「そうだ、本をよもう」など キャッチフレーズ キャッチコピー
ボランティア	図書館ボランティアを400人～500人募集し、本のPR隊結成 小学生も
おすすめコーナー	少子・高齢化 人口減少を考え、年代別に対応を考える 図書館で、ストーリーの短い本、おすすめコーナーを作る！ 市役所へ訪れた市民の待ち時間に目にとまる場所へ本を置く 年代別にニーズを探る 絵本 落語（CD） 子育て本講座 子どもも友人に読ませたい本のコーナーをどこかに作る 有名な方がおすすめする本の紹介コーナー



2018年1月27日(土)

第2次 長久手市子ども読書活動推進計画策定 のための
第1回ワークショップを開催しました！

テーマ「子どもと読書」家庭や地域でできること



中央図書館AVルームにおいて、第1回ワークショップを開催しました。このワークショップは、第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定に向けて、市民の皆さんに子どもの読書について一緒に考えていただくものです。

今回は、図書館職員から図書館の事業紹介と計画策定への流れを聞いた後、3つの班に分かれ、以下のテーマについて考えていただきました。

A班

「家庭」：家庭で本を楽しむ方法を年齢別に考えてみよう

B班

「児童館」：児童館に来る子どもたちが本に親しむためには？

C班

「保育園・幼稚園」：保育園、幼稚園で子どもたちへ本の魅力をつたえるには？



各班でのワークショップの様子



A班

幼児・小・中・高校生と年齢が上がるにつれ、読書への関心が薄れていく傾向があるため、どのような仕掛けをするのが大切。

B班



読み聞かせなどで読書へのきっかけ作りを行うとよい。良書の紹介など。



C班

まず、大人が子どもの本を好きになり、本の魅力を伝える環境作りが必要。



幼少期にいか
に読書習慣を
身につけるか
が大切です



ファシリテーター
愛知産業大学 人間情報学部
浅石卓真 先生





2018年2月3日(土)

第2次 長久手市子ども読書活動推進計画策定のための
第2回ワークショップを開催しました！

テーマ 子どもに読書の楽しみを伝えるためには



中央図書館AVルームにおいて、第2回ワークショップを開催しました。

第1回目のワークショップから引き続き参加された方も多く、和やかな雰囲気の中、たくさんの意見が交わされました。

まずは、図書館職員が図書館の事業紹介、前回ワークショップの様子、第2次計画策定への流れを説明した後、第1次計画の検証を基に下記の3つのテーマについて、各班に分かれ考えていただきました。

A班

「図書館」：子どもの図書館利用を増やすには？

B班

「学校」：学校連携司書や学校ができること、求められていることは？

C班

「総合」：読書活動の大切さをPRする取組みを考えてみよう



各班でのワークショップの様子



A班

図書館で各種イベントを開催する
よい雰囲気づくり
街中で本との関わり等



B班

学校図書館にいつも「ひと」がいること
家庭、保護者への情報発信をする
大人が「本」に興味を持つこと



C班

図書館から「アウトリーチ」を行う
図書館を宣伝するキャッチコピーを作る
本のPR陣結成

公共図書館の役割は時代とともに変わってきました。

以前は、勉強場所の提供や本の貸出が重視されてきましたが、今は居場所としての役割も求められるようになりつつあります。

2回のワークショップでみなさまからいただいた意見等を計画に盛り込んでいきます。



ファシリテーター
愛知県立大学 人間情報学部
浅石卓真 先生

第2次長久手市子ども読書活動推進計画
基礎調査報告書（案）

平成30年2月

目次

第1章 調査の概要.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査対象者及び調査方法.....	1
(3) 調査期間.....	1
(4) 回収状況.....	1
(5) 調査報告書の表記.....	1
第2章 調査結果.....	2
1. 子どもの読書についてのアンケート.....	2
(1) 3歳児・5歳児の保護者集計結果.....	2
(2) 小学1、3、6、年生及び中学2年生集計結果.....	11
2. 市民団体、関係機関へのヒアリング.....	24
(1) ヒアリング対象.....	24
(2) 調査結果.....	24
3. 読書活動に関する活動調査.....	25
(1) 読書に関するデータ.....	25
(2) 自由記述回答の抜粋.....	29
調査票.....	35
・アンケート調査票（3歳児・5歳児用、小学生用、中学生用）	
・団体ヒアリングシート	
・関係機関ヒアリングシート	
・読書活動推進に関する活動調査	

第1章 調査の概要

(1)調査目的

長久手市が、平成25年4月に「第1次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定し、様々な取組を展開してきたが、5年の計画期間が終了することから、新たに今後5年間を見据えた「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定する必要があるため、現況を把握するとともに、策定に資する基本データを得ることを目的として調査を実施した。

(2)調査対象者及び調査方法

ア 3歳8か月児健診参加者

12月の3歳8か月児健診参加者に事前にアンケート用紙を自宅に郵送し、健診時に回収した。

イ 5歳児保育園の保護者

アンケート用紙を家庭に持ち帰り、保護者が回答し、保育園に提出した。

ウ 小学1年生、3年生、6年生

児童に学校でアンケート用紙を配布し、回答を回収した。

エ 中学2年生

生徒に学校でアンケート用紙を配布し、回答を回収した。

オ 特別支援学級児童・生徒

該当する学年においてアンケート用紙を配布し、回答を回収した。

(3)調査期間

平成29年11月～平成29年12月

(4)回収状況

区分	対象者数 (人)	回答者数 (人)	回収率 (%)
3歳8か月児健診参加者	60	39	65.0
5歳児保育園の保護者	300	178	59.3
小学1年生	720	709	98.5
小学3年生	701	683	97.4
小学6年生	625	619	99.0
中学2年生	541	515	95.2
合計	2,947	2,743	93.1

(5)調査報告書の表記

- ・回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入し、パーセント (%) で表記した。そのため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- ・グラフ中の (N=〇〇) は、回答者の母数 (無回答を除く) を表している。

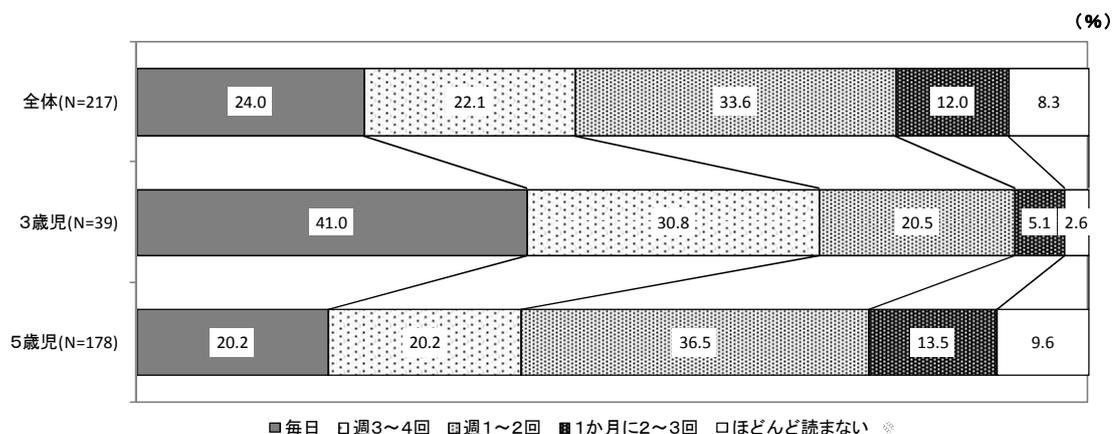
第2章 調査結果

1. 子どもの読書についてのアンケート

(1) 3歳児・5歳児の保護者集計結果

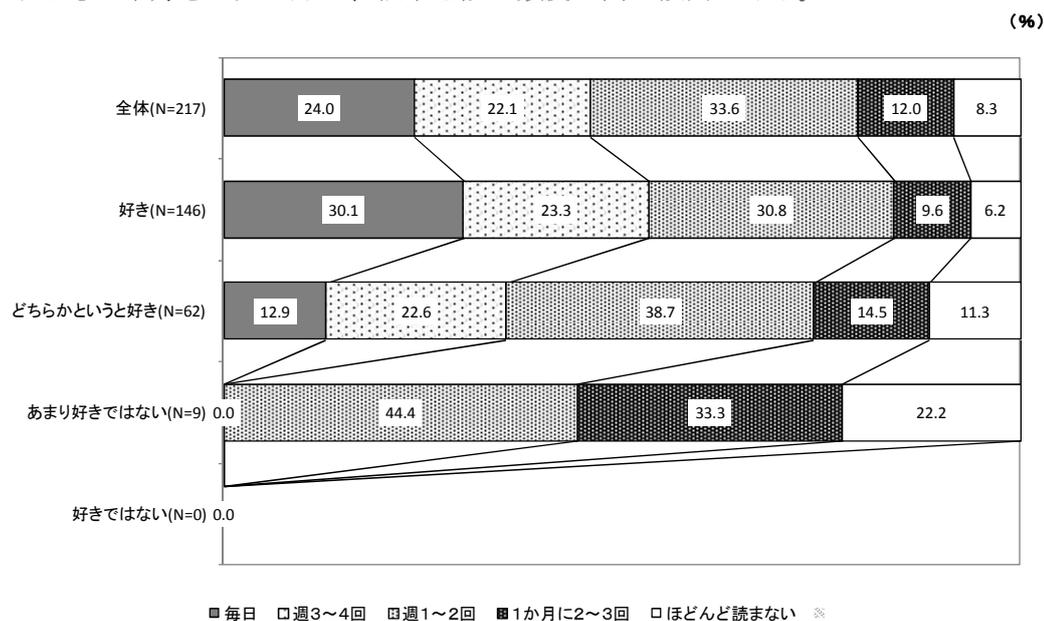
質問1：お子さんに絵本を読んであげる時間をどの程度もっていますか？

全体では、「週に1～2回」が最も多く、3割を超えている。3歳児は、「毎日」が最も多く、約4割を占めている。5歳児では、「週に1～2回」が最も多く、3割台半ばとなっている。平成23年度調査と比較すると、全体的に「毎日」が増えており、頻度が高くなっている傾向がうかがえる。



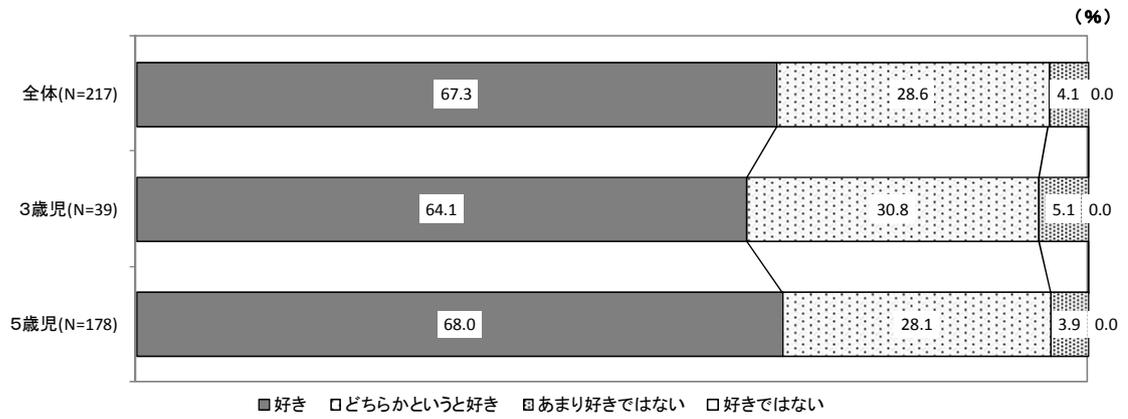
質問2：お子さんは本が好きですか？ × **質問1：お子さんに絵本を読んであげる時間を、どの程度もっていますか？**

子どもが本好きの人の方が、絵本を読む頻度が高い傾向がある。



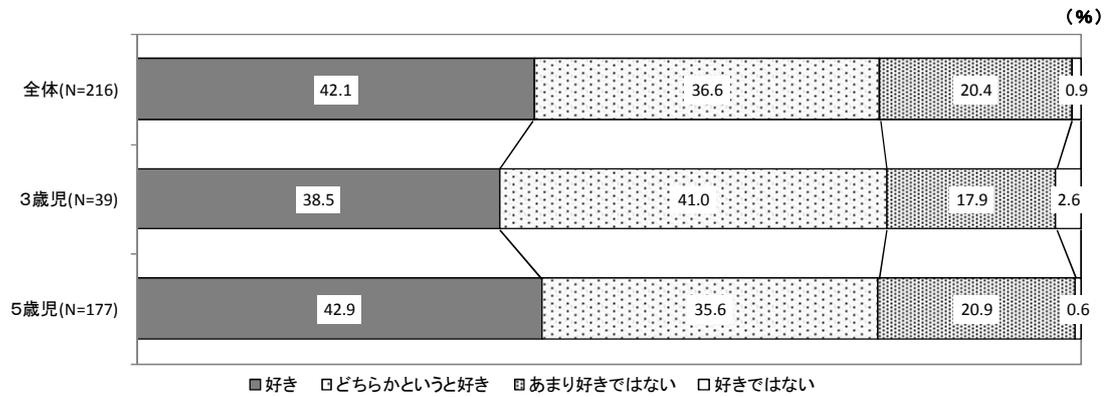
質問2:お子さんは本が好きですか？

全体では、「好き」が7割近くを占めている。3歳児、5歳児では、5歳児の方がやや多い傾向がみられる。平成23年度調査と比較すると、全体的に1割以上「好き」が増えている。



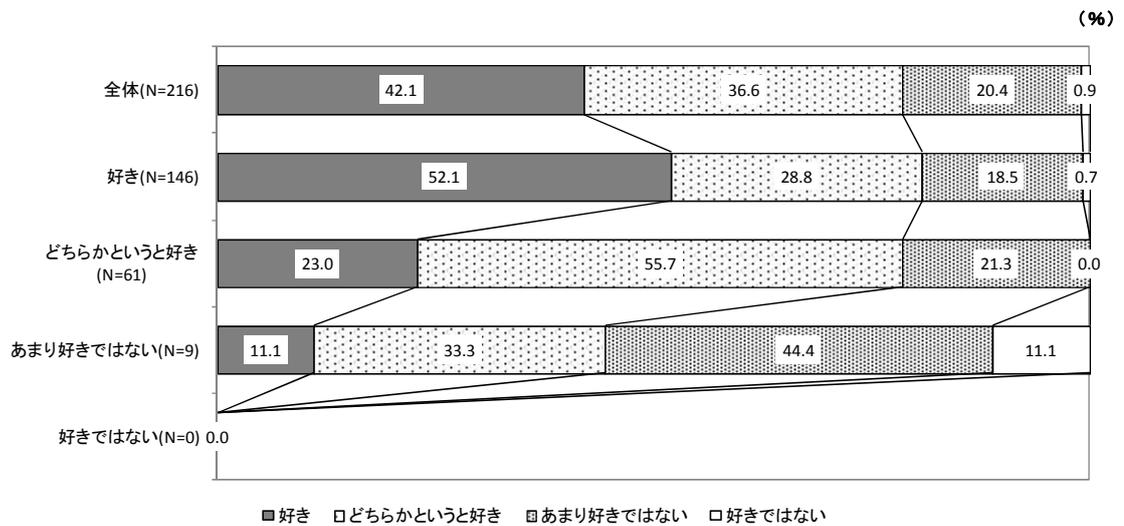
質問3:あなた自身は本が好きですか？

全体では「好き」が4割を超えており、「どちらかという好き」との合計では8割近くとなっている。5歳児の方が、3歳児より「好き」がやや多くなっている。平成23年度調査と比較すると、3歳児で「好き」が減少している。



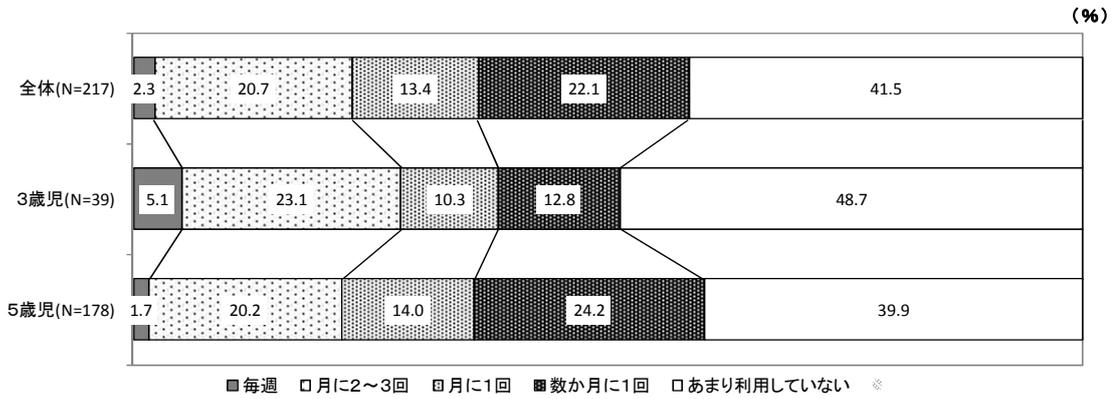
質問2:お子さんは本が好きですか？ × 質問3:あなた自身は本が好きですか？

子どもが本好きの人の方が、親が本を好きな傾向がある。



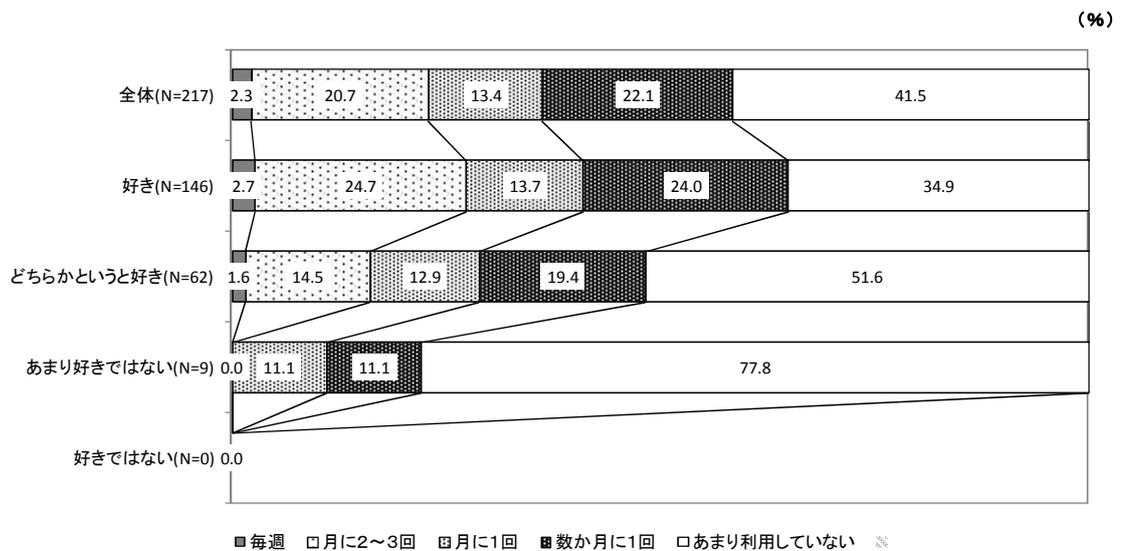
質問4: 中央図書館や児童館などの図書室をどの程度利用していますか？

全体では「あまり利用していない」が約4割で最も多い。5歳児の方が、3歳児と比較して、「数か月に1回」が多くなっており、「あまり利用していない」が少なくなっている。平成23年度調査と比較すると、全体的に「あまり利用していない」が減少しており、利用頻度が高くなっていることがうかがえる。



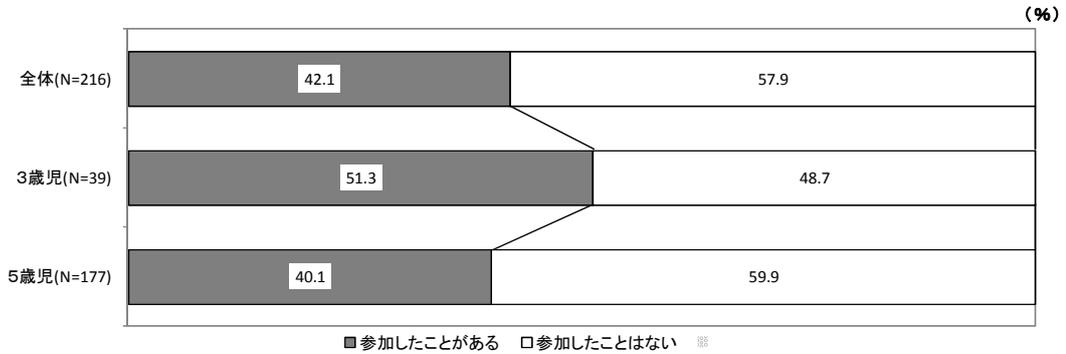
質問2: お子さんは本が好きですか？ × 質問4 中央図書館や児童館などの図書室を、どの程度利用していますか？

子どもが本好きの人の方が、中央図書館や児童館などの図書室を利用している傾向がある。



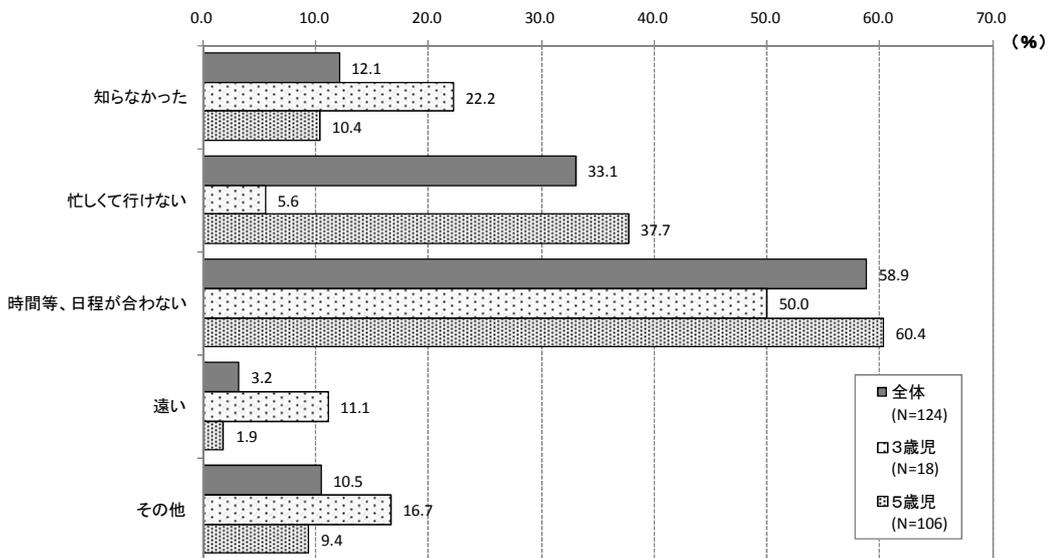
質問5-1: 中央図書館や児童館などでおはなし会が開催されていますが、参加したことはありますか？

全体では「参加したことがある」が4割を超えている。3歳児の方が、5歳児と比較して「参加したことがある」が多くなっている。平成23年度調査と比較すると、全体的に「参加したことがある」が増えている傾向がみられる。



質問5-2: 質問5-1で「2. 参加したことはない」と回答した方にお尋ねします。あなたがおはなし会に参加したことがない理由は何ですか。当てはまる回答をすべて選んでください。

全体としては、「時間等、日程が合わない」が最も多く6割近くであり、ついで「忙しくていけない」が多い。5歳児では、「忙しくて行けない」が4割近くと多くなっている。平成23年度調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。



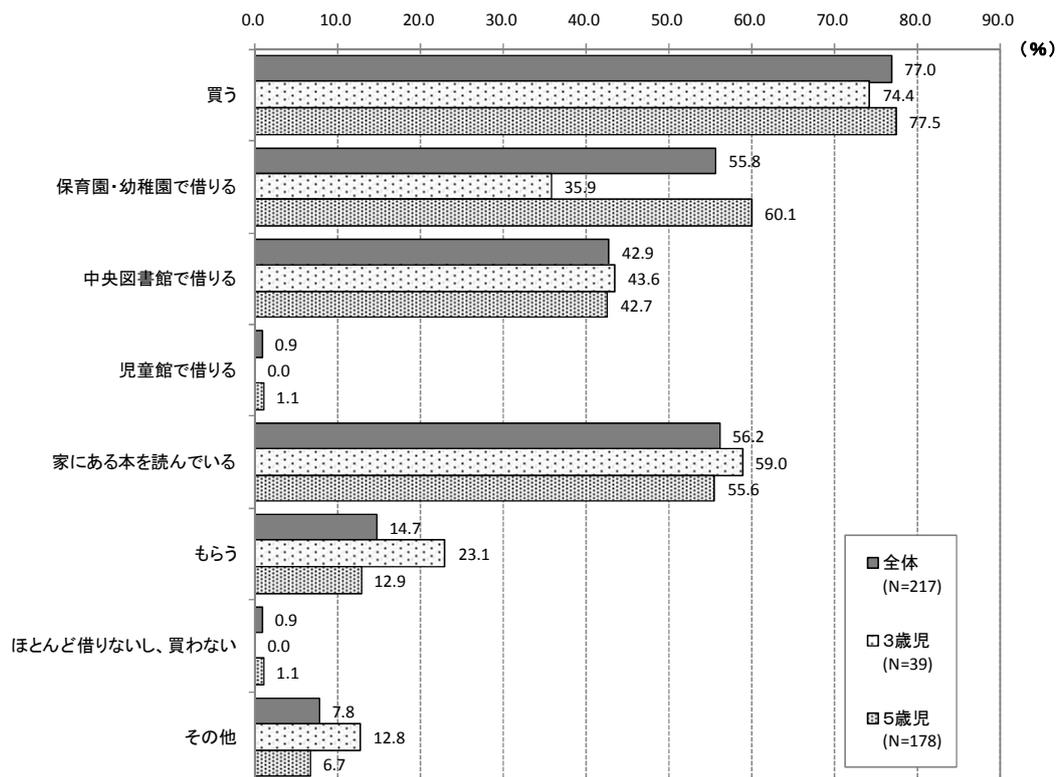
<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

- ・おはなし会より外で遊ぶ方が好き
- ・そのためだけに行くイベントではないと思う。
- ・家で自分で読んでいるから。
- ・開催されていることは知っているが、日時を詳しく把握できていないため
- ・混み合いそう
- ・子どもがじっとしてられない
- ・子どもが多動のため
- ・人が多い所に行きたくない。

- ・大人数がこわい
- ・駐車場が不便 (3)

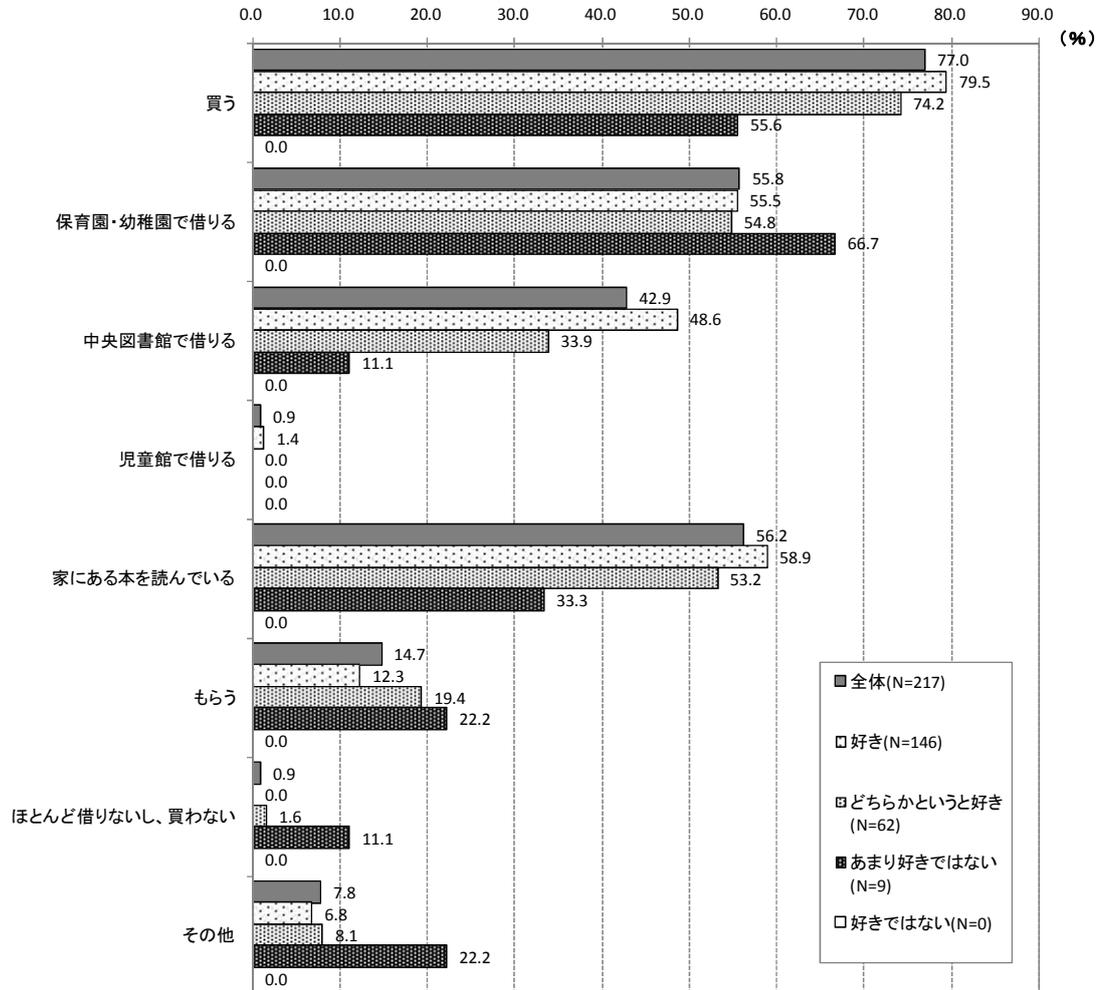
質問6:お子さんの本をどのようにして手に入れていますか？(複数回答)

全体としては「買う」が最も多く、8割近くとなっており、次いで「家にある本を読んでいる」、「保育園・幼稚園で借りる」、「中央図書館で借りる」が多くなっている。5歳児では、3歳児よりも、「保育園・幼稚園で借りる」が多くなっている。平成23年度調査と比較すると、「買う」が多くなっている傾向がみられる。



■質問2：お子さんは本が好きですか？ ×質問6：お子さんの本をどのようにして
手に入れていきますか？（複数回答）

子どもが本好きの人のほうが、本を手に入れる手段として「買う」「中央図書館で借りる」「家にある本を読んでいる」が多い傾向がある。

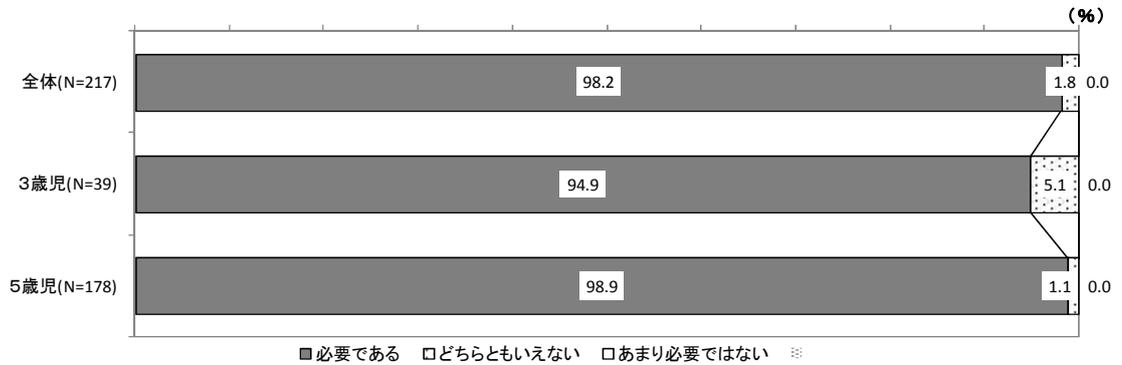


<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

- ・通信教育 (2)
- ・エコハウス
- ・月1回幼稚園から教材として使ったのを持ち帰ってくる
- ・他の図書館で借りる (11)
- ・定期購読便 (月に2冊)
- ・本屋で読む

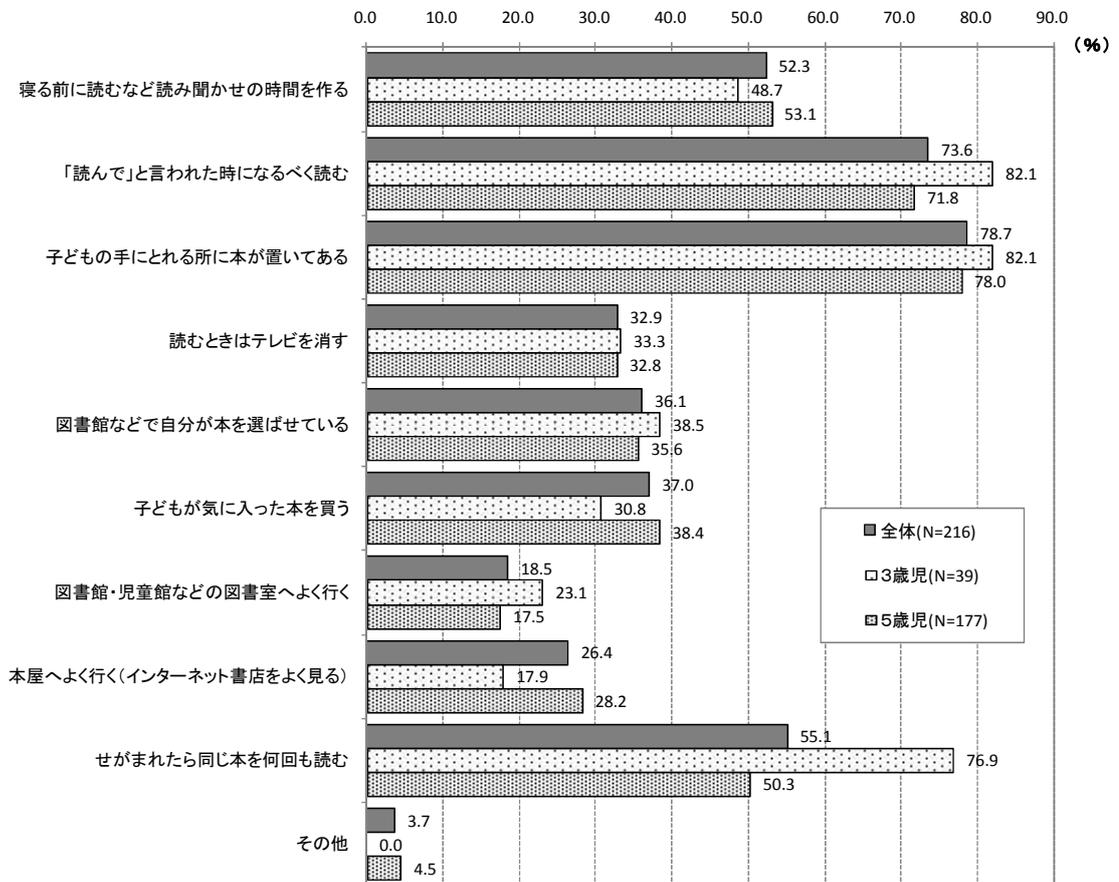
質問7:本と親しむことは、お子さんの成長に必要と思われますか？

全体では、「必要である」が10割近い回答を占めている。平成23年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。



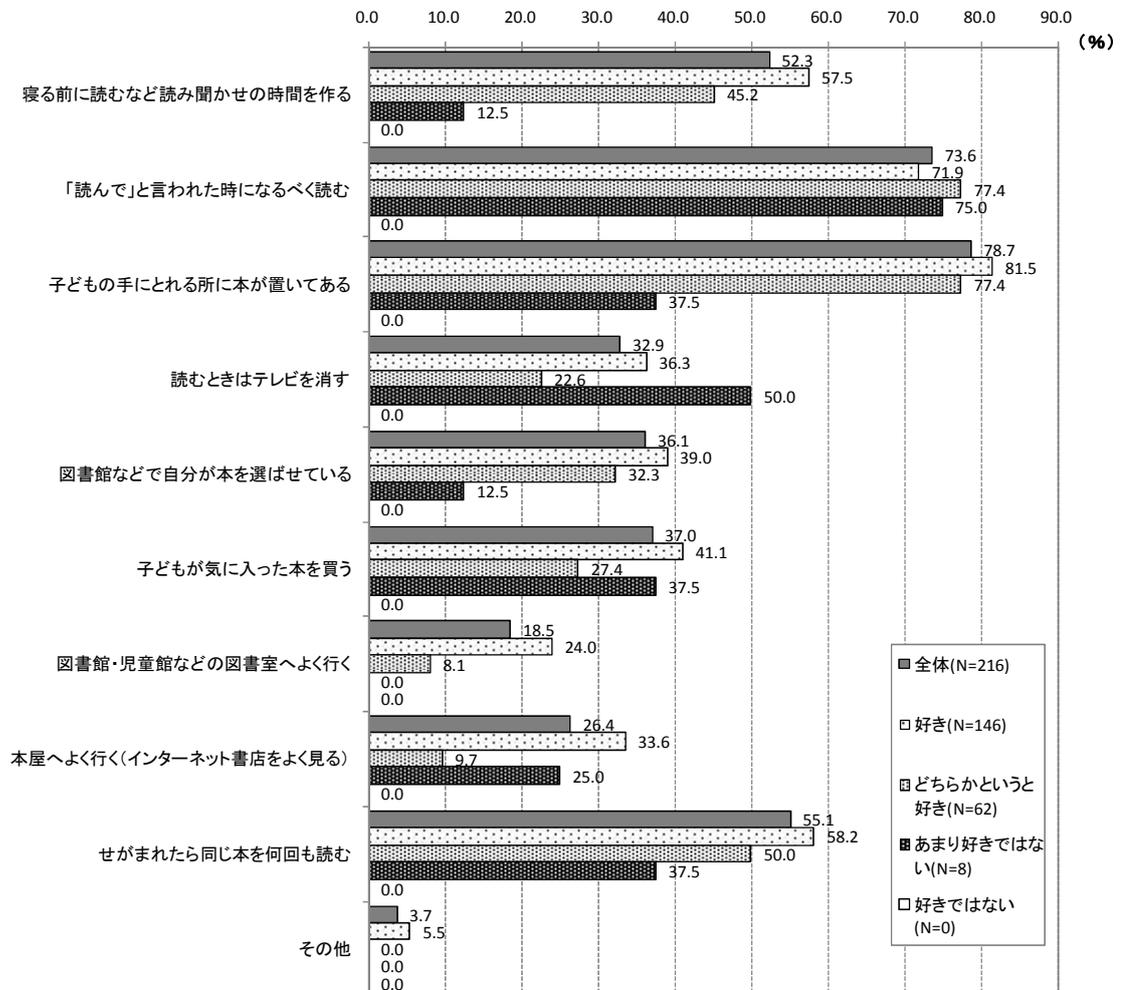
質問8:お子さんが本を好きになるために、ご家庭で何か工夫をしていますか？

全体では、「子どもの手にとれる所に本が置いてある」が8割近くで最も多く、ついで「読んで」と言われた時になるべく読む、「せがまれたら同じ本を何回も読む」、「寝る前に読むなど読み聞かせの時間を作る」が多くなっている。3歳児は、5歳児と比較して、「せがまれたら同じ本を何回も読む」が多くなっている。平成23年度調査と比較すると、概ね同様の結果となっている。



■質問2：お子さんは本が好きですか？ ×質問8：お子さんが本を好きになるために、ご家庭で何か工夫をしていますか？（複数回答可）

子どもが本好きの人の方が、「寝る前に読むなど読み聞かせの時間を作る」「子どもの手にとれる所に本が置いてある」「図書館などで自分が本を選ばせている」「せがまれたら同じ本を何回も読む」が多い傾向がある。



<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

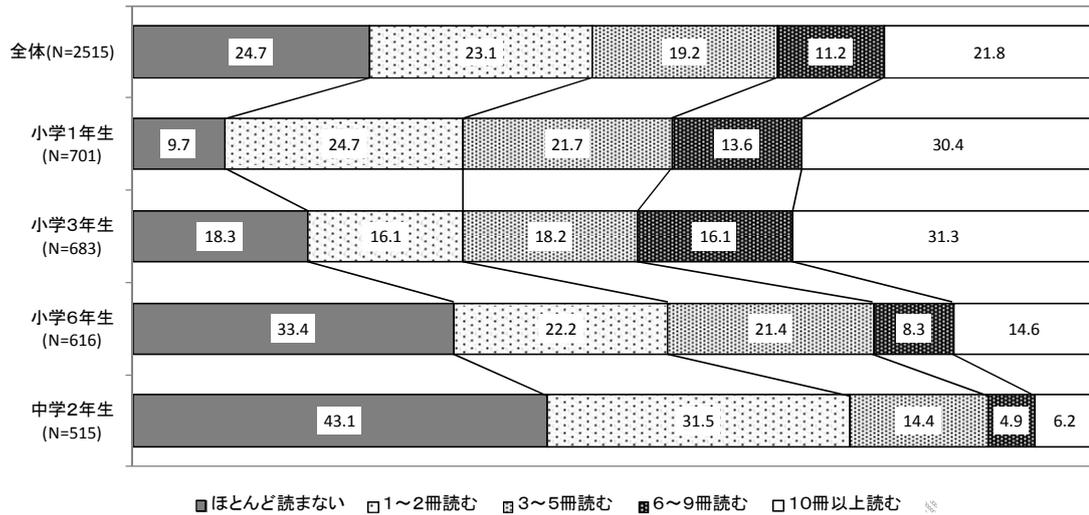
- ・私自身が楽しんで本を読んでいるので、横で一緒に読んだりしています
- ・自分で読んでいる時は終わるまでゆっくり読ませる。
- ・自分で物語を作って遊ぶ。
- ・色々のジャンルの本を家にたくさんおく。
- ・親が読んでいる本の説明をする
- ・図鑑などの本も、積極的に見せるようにしている。
- ・平日は仕事をしており、ゆっくり本を選ぶ余裕がないため、病院の待ち時間に読んであげる。姉(小学生)の宿題の音読をいっしょに楽しむ。

(2) 小学1、3、6、年生及び中学2年生集計結果

質問1-1: 1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？

全体では、「ほとんど読まない」が最も多く、2割台半ばとなっている。年齢が上がるにつれて、「ほとんど読まない」が増え、読む冊数が少なくなる傾向がみられる。平成23年度調査と比較すると、やや冊数が増える傾向がみられる。

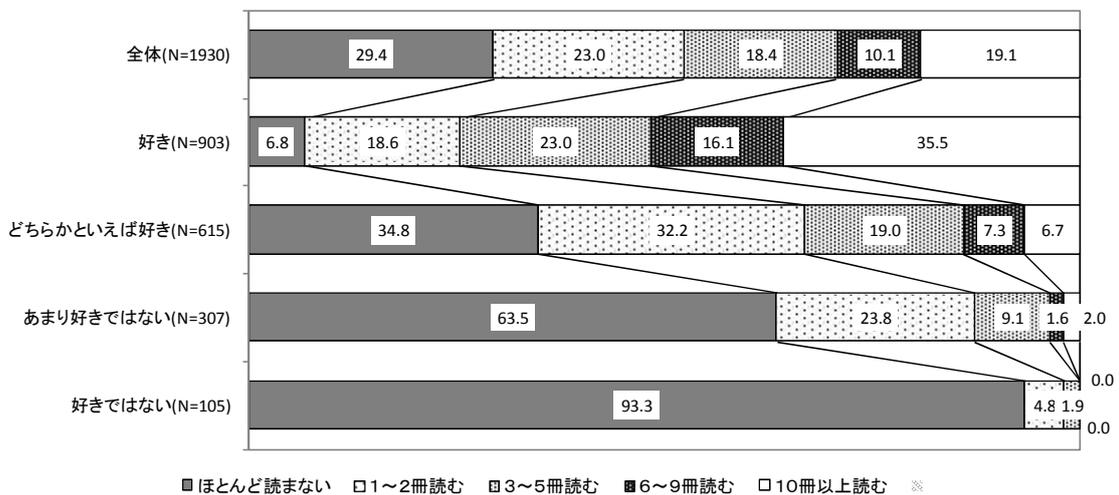
(%)



質問9: あなたは本を読むことが好きですか？ × 質問1-1: 1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？

本を読むことが好きな子どもの方が、本を多く読んでいる傾向がある。

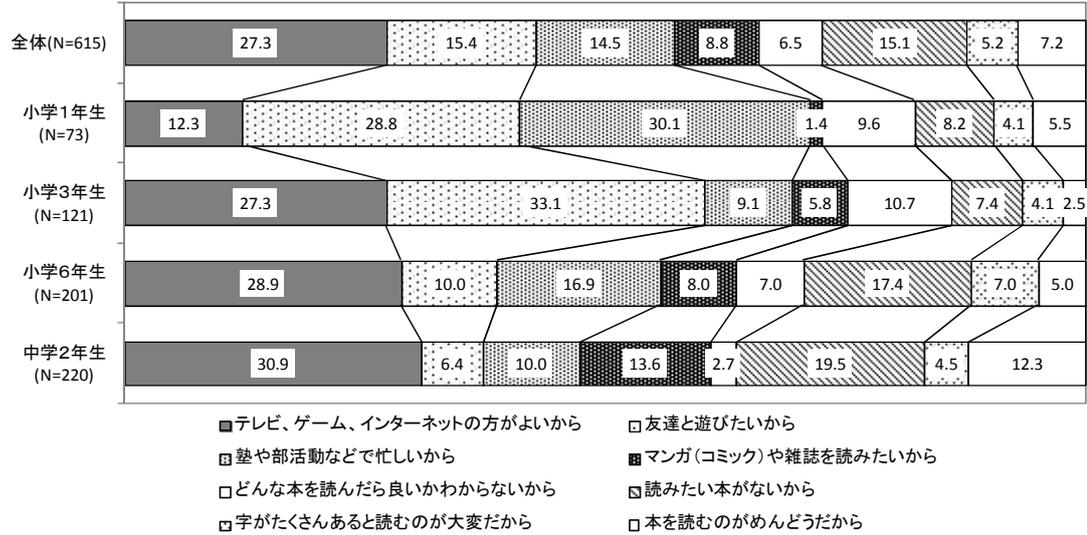
(%)



質問1-2:「ほとんど読まない」と答えた人はどうしてですか？

全体としては、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよいから」が最も多くなっている。年齢が上がるほど、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよいから」が多くなっている。小学1年生、小学3年生は「友達と遊びたいから」が特に多くなっている。平成23年度調査と比較すると、「テレビ、ゲーム、インターネットの方がよいから」が大きく増えており、特に小学6年生、中学2年生で顕著である。

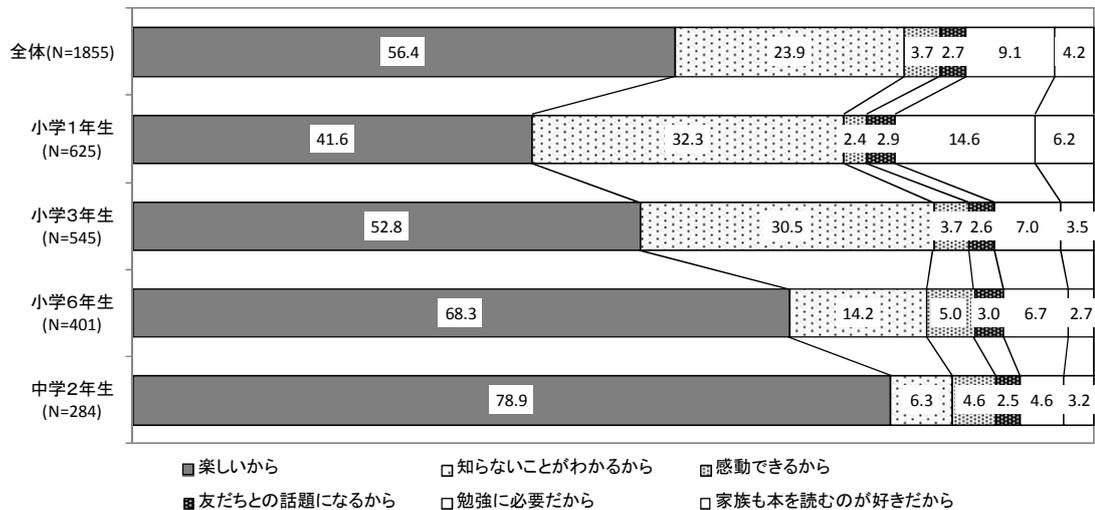
(%)



質問1-3:「読む」と答えた人におたずねします。あなたが、本を読むのはどうしてですか。

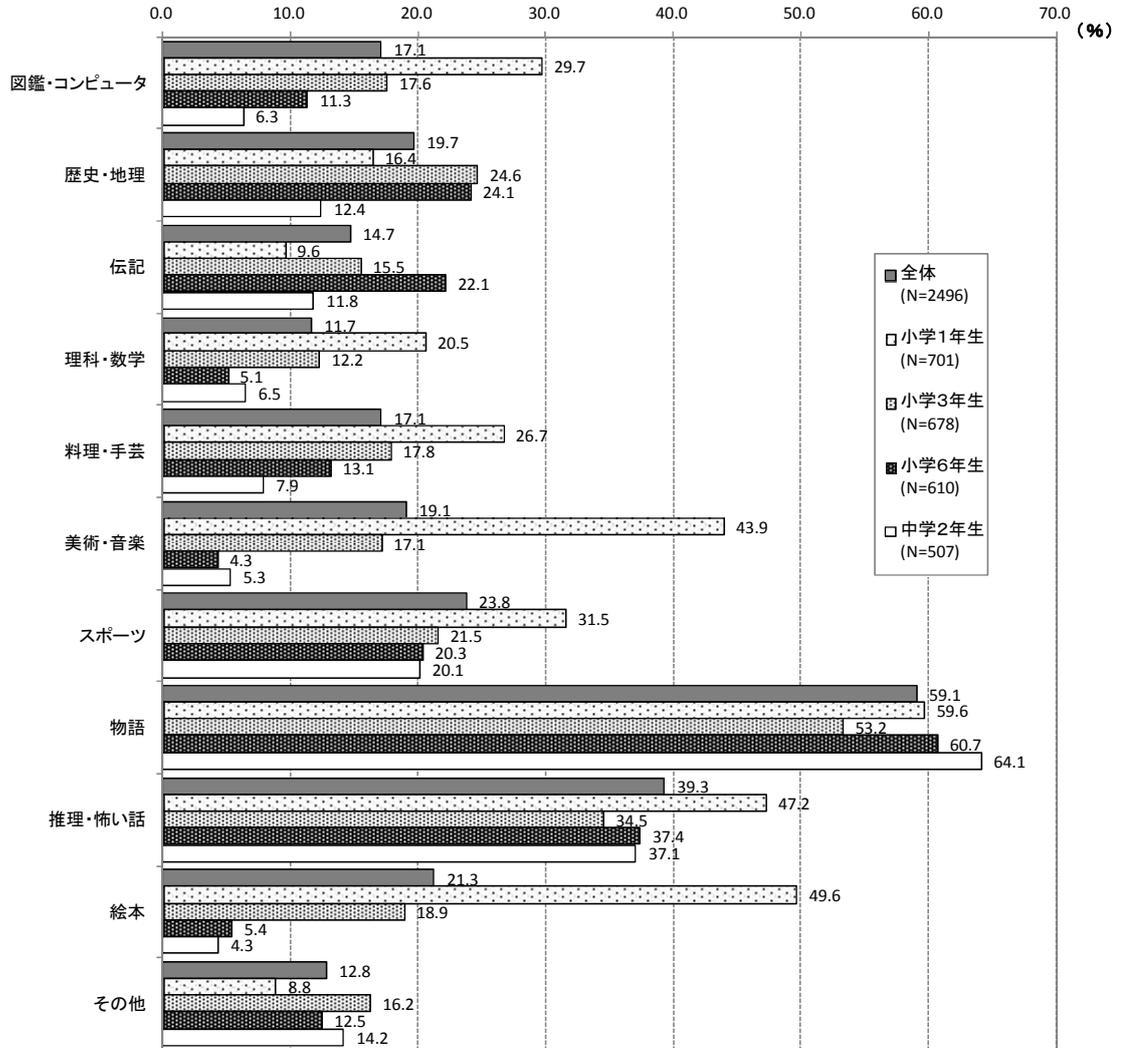
全体としては、「楽しいから」が5割台半ばで最も多く、ついで「知らないことがわかるから」が多い。年齢が上がるにつれて、「楽しいから」が増え、「知らないことがわかるから」が少なくなる傾向がみられる。平成23年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

(%)



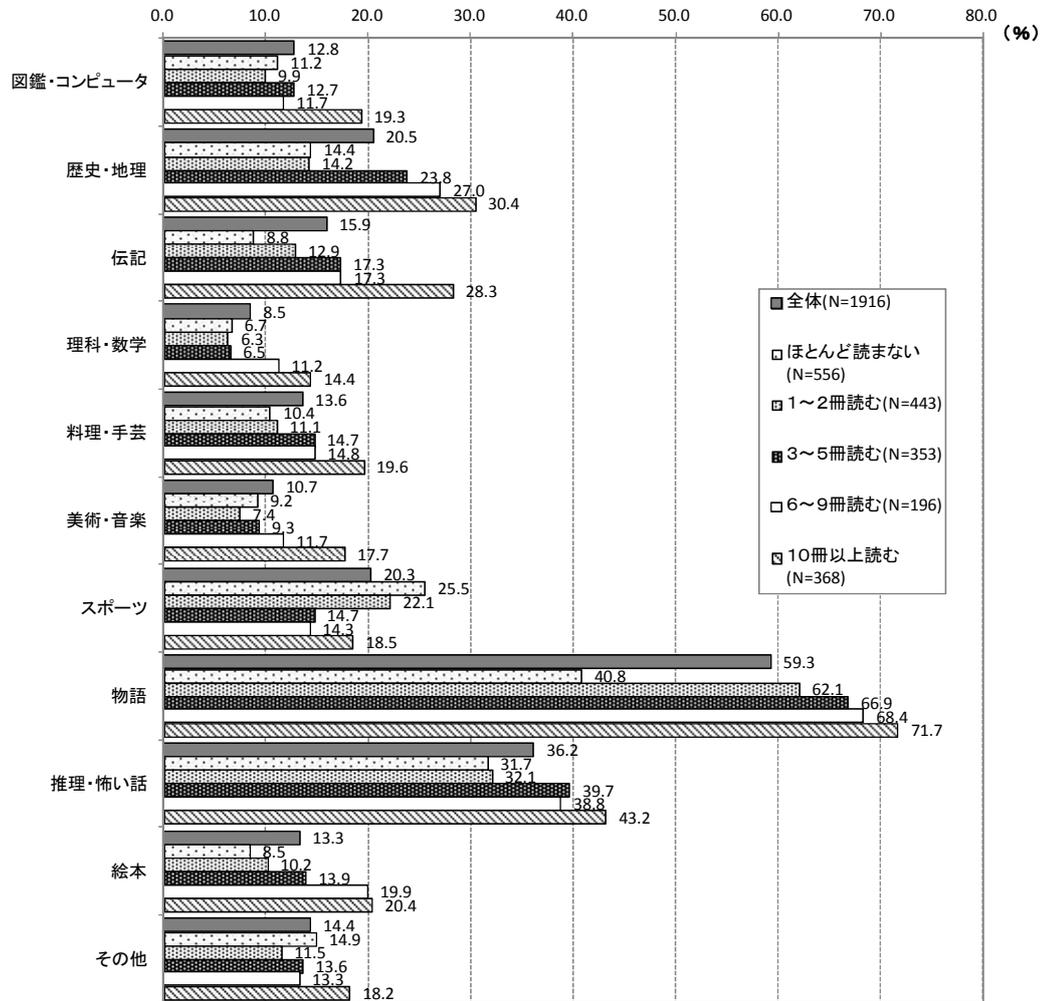
質問2:どんな本が好きですか？

全体としては、「物語」が約6割で最も多く、ついで「推理・怖い話」が多くなっている。小学1年生では、「絵本」、「美術・音楽」、「図鑑・コンピュータ」が特に多くなっている。平成23年度調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。



■ 質問1-1：1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？ × 質問2：どんな本が好きですか？

本を多く読んでいる子どもの方が、「物語」「推理・怖い話」「伝記」「歴史・地理」が多い傾向がある。



<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

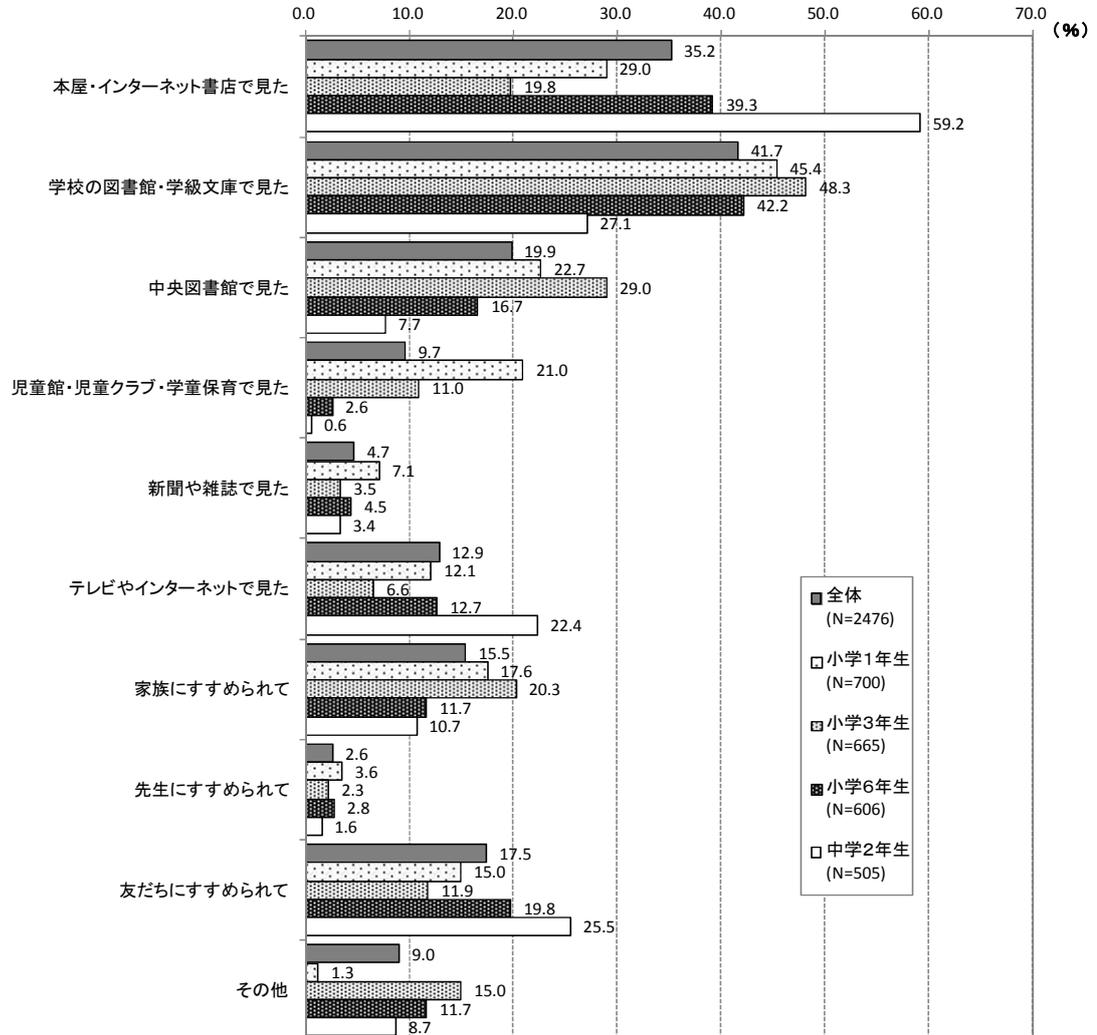
なぞなぞ、クイズ、間違い探しなど (36)

迷路 (20)

占い、心理テストなど (8)

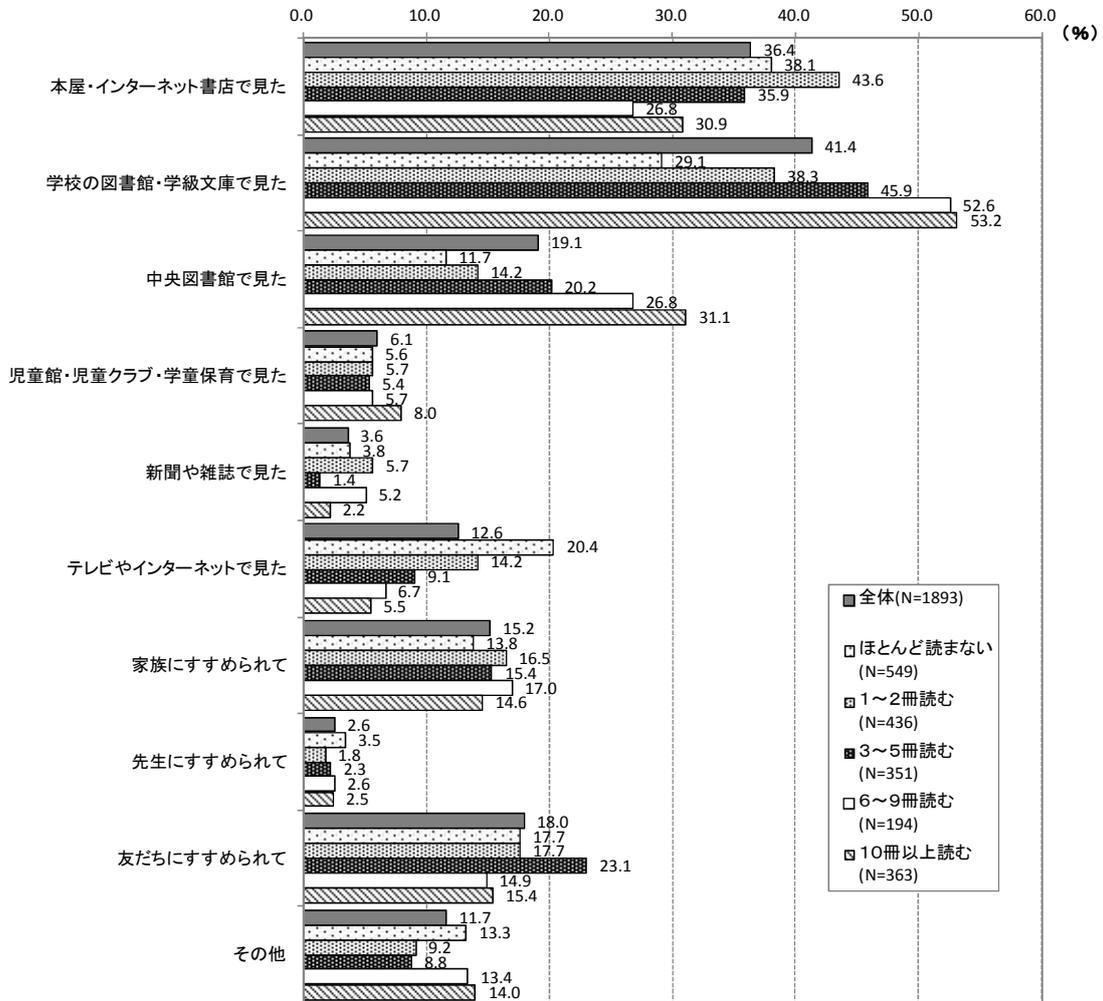
質問3:あなたは、どんなきっかけで本を読むことが多いですか？

全体としては、「学校の図書館・学級文庫で見た」が4割を超えて最も多く、ついで「本屋・インターネット書店で見た」が多くなっている。平成23年度調査と比較すると、「学校の図書館・学級文庫で見た」が多くなっている傾向がみられる。



■質問1-1：1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？× 質問3：あなたは、
どんなきっかけで本を読むことが多いですか？

本を多く読んでいる子どもの方が、本を読むきっかけとして「学校の図書館・学級文庫で見た」「中央図書館で見た」が多い傾向がある。「テレビやインターネットで見た」は、本を読まない子どもの方が高い傾向がある。



<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

おもしろそうと思ったから。(20)

アニメや映画で見て。(9)

朝読で本を読むから。(8)

友達が読んでいておもしろそうだったから。(8)

課題図書、読書感想文(8)

家に本がたくさんあるから。(7)

家族などに薦められたから(6)

一回読んだ時におもしろかったから。(3)

好きな作家さんの本だから。(3)

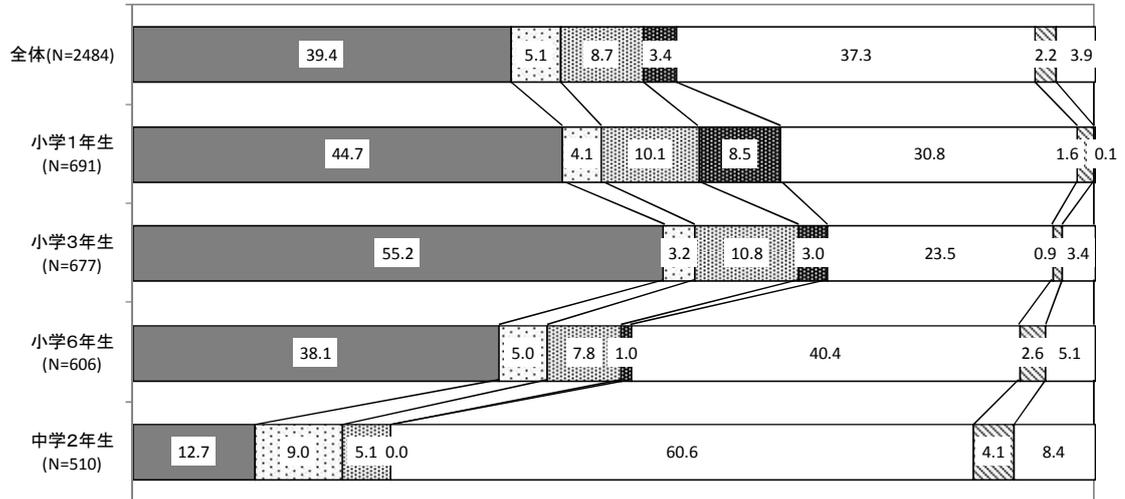
人気だったから。(3)

表紙の絵。(3)

質問4:どこの本をよく読みますか？

全体としては、「学校の図書館」が約4割で最も多く、ついで「自分の家の本」が多い。年齢が上がるにつれて「学校の図書館」が少なくなり、「自分の家の本」が増える傾向があるが、小学3年生が最も「学校の図書館」が多くなっている。平成23年度と比較すると、「学校の図書館」が多くなっており、特に小学3年生で顕著である。

(%)

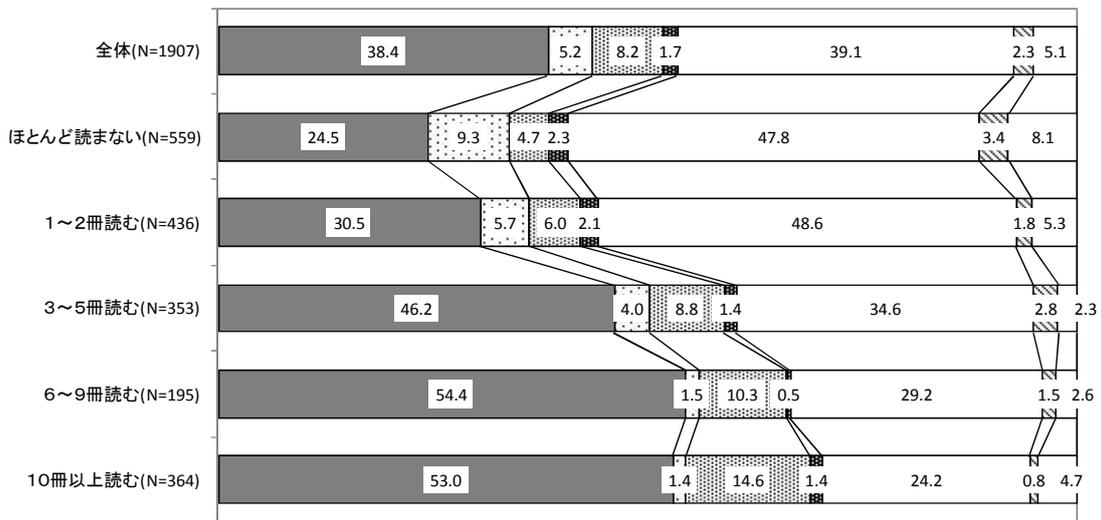


■学校の図書館 □学級文庫 ▣中央図書館 ■児童館・児童クラブ・学童保育 □自分の家の本 ▨友だちの本 □その他

質問1-1:1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか? ×質問4:どこの本をよく読みますか?

本を多く読んでいる子どもの方が、「学校の図書館」の本をよく読んでいる傾向がある。

(%)



■学校の図書館 □学級文庫 ▣中央図書館 ■児童館・児童クラブ・学童保育 □自分の家の本 ▨友だちの本 □その他

<その他の記載内容> ※主な意見を掲載

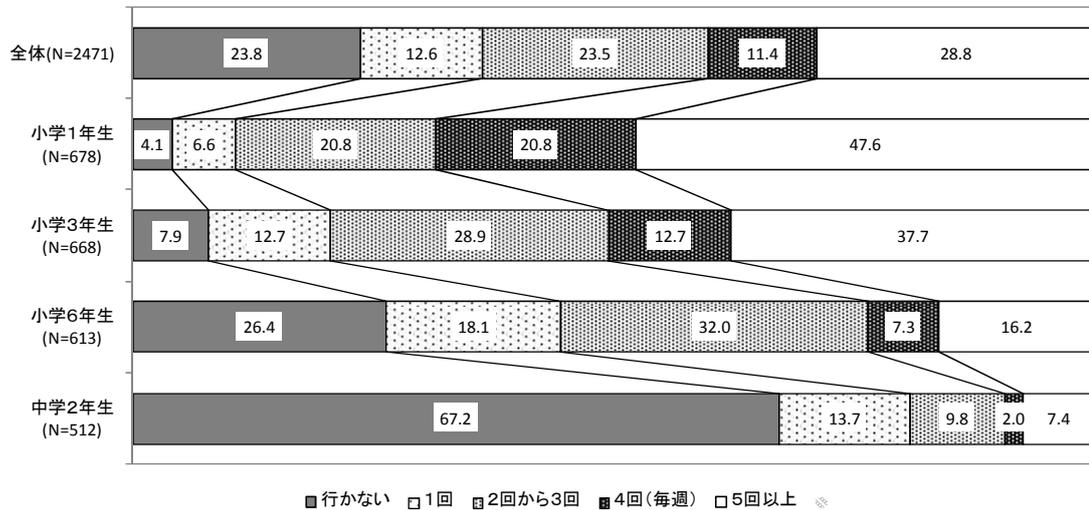
その他の図書館 (13)

その他の施設 (3)

質問5:あなたは、1か月のうち学校の図書館へ何回行きますか？

全体としては、「5回以上」が最も多く、3割近くとなっている。年齢が上がるにつれて回数が少なくなる傾向がみられ、小学1年生では「5回以上」が5割近くであったが、中学2年生では「行かない」が6割台半ばとなっている。平成23年度調査と比較すると、全体的に、回数が増えている傾向がみられる。

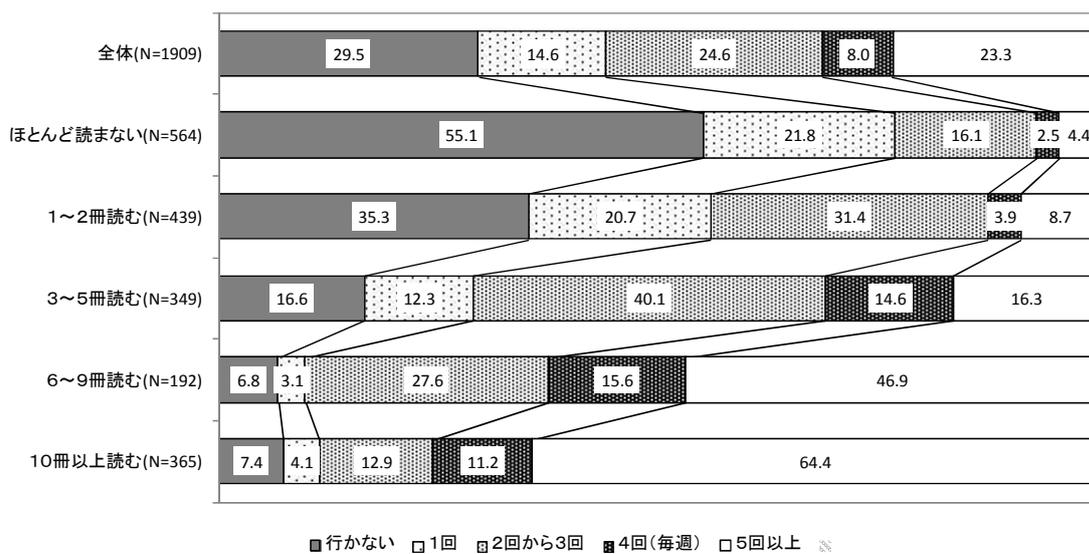
(96)



質問1-1:1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？ ×質問5:あなたは、1か月のうち学校の図書館へ何回行きますか？

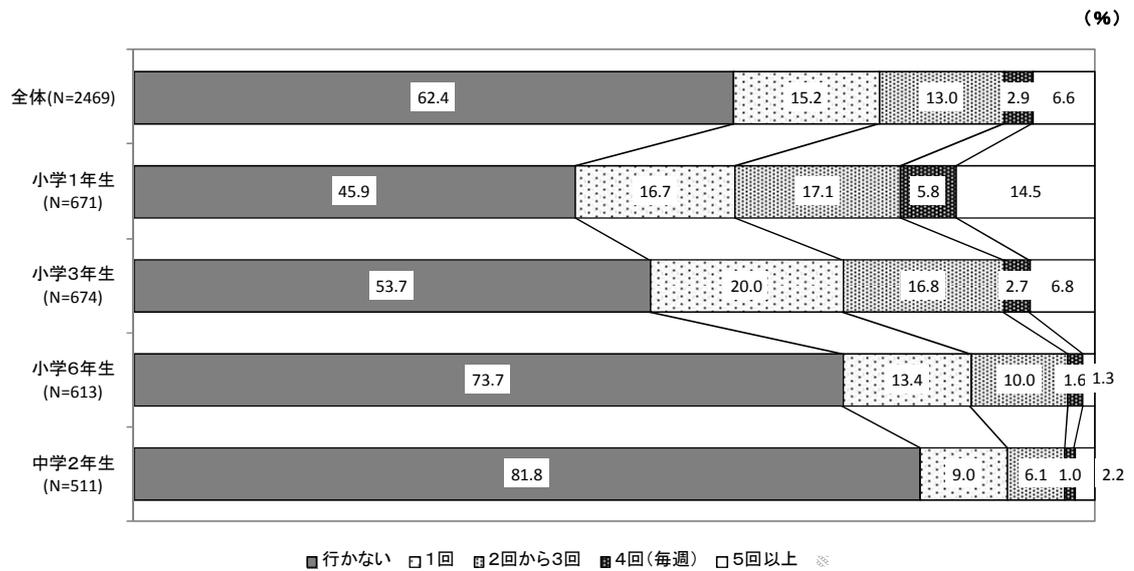
本を多く読んでいる子どもの方が、学校の図書館に行く頻度も多い傾向がある。

(96)



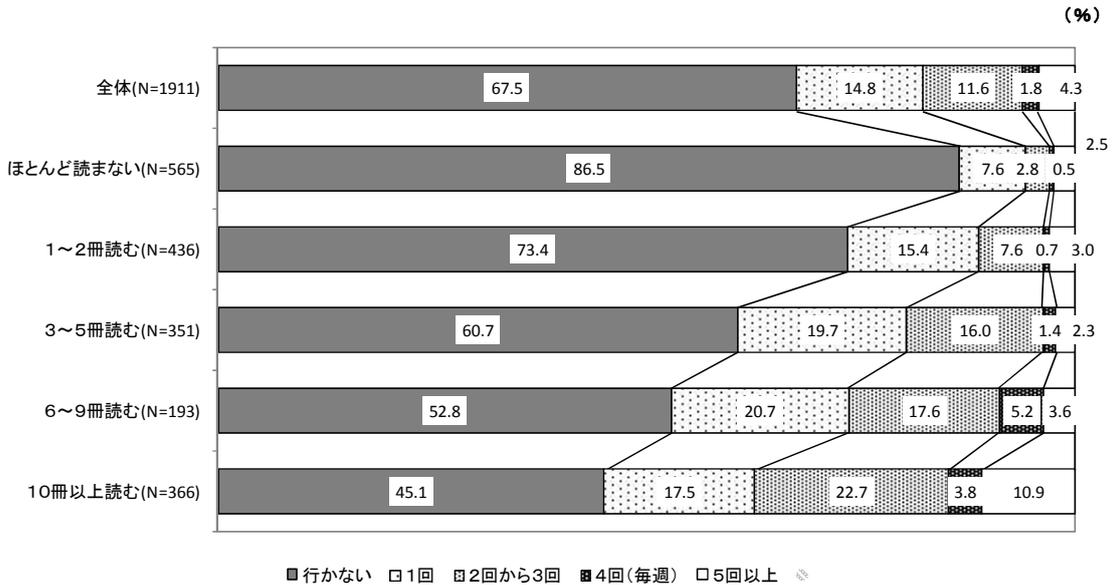
質問6:あなたは1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？

全体としては、「行かない」が6割を超えて最も多い。年齢が上がるほど回数が少なくなる傾向がみられ、小学1年生では「行かない」が4割台半ばであるが、中学2年生では8割を超えている。平成23年度調査と比較すると、各年齢において、「行かない」がやや増加している傾向がみられる。



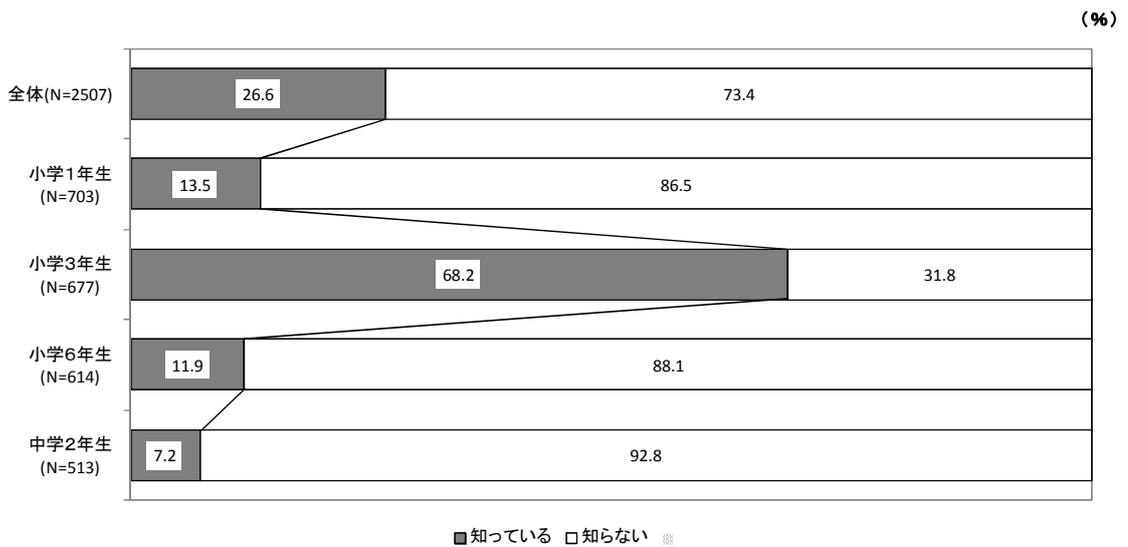
■質問1-1：1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？ ×質問6：あなたは1か月のうち中央図書館へ何回行きますか？

本を多く読んでいる子どもの方が、中央図書館に行く頻度も多い傾向がある。



質問7：中央図書館で配布している「読書手帳」を知っていますか？

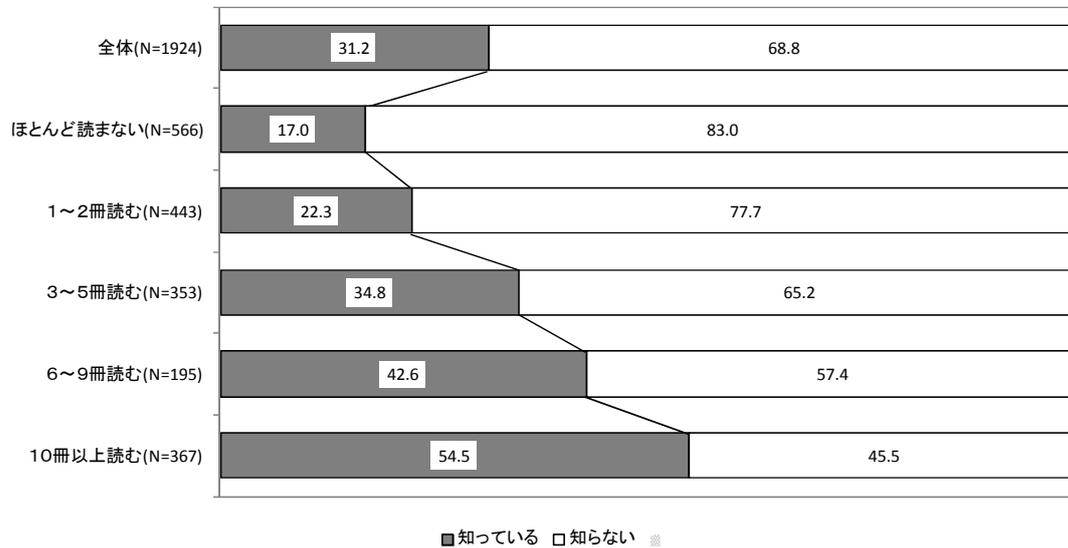
全体では、「知っている」が2割台半ばとなっている。小学3年生で「知っている」が特に多く、7割近くである。



■質問1-1：1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？ ×質問7：中央図書館で配布している「読書手帳」を知っていますか？

本を多く読んでいる子どもの方が、「読書手帳」をよく知っている傾向がある。

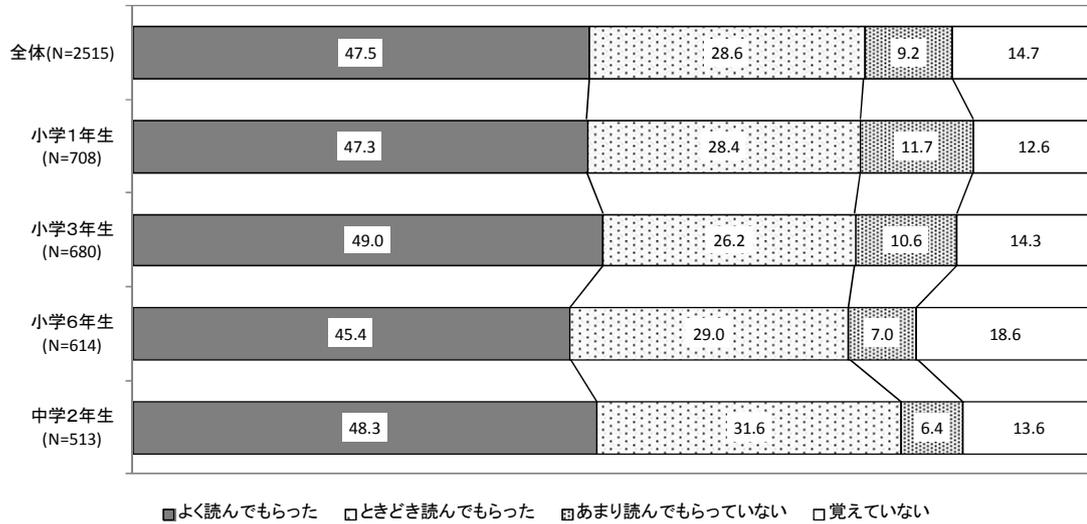
(96)



質問8：幼稚園や保育園のころ、家の人に本を読んでもらいましたか？

全体では、「よく読んでもらった」が5割を超えて最も多い。年齢による差はあまりみられない。平成23年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

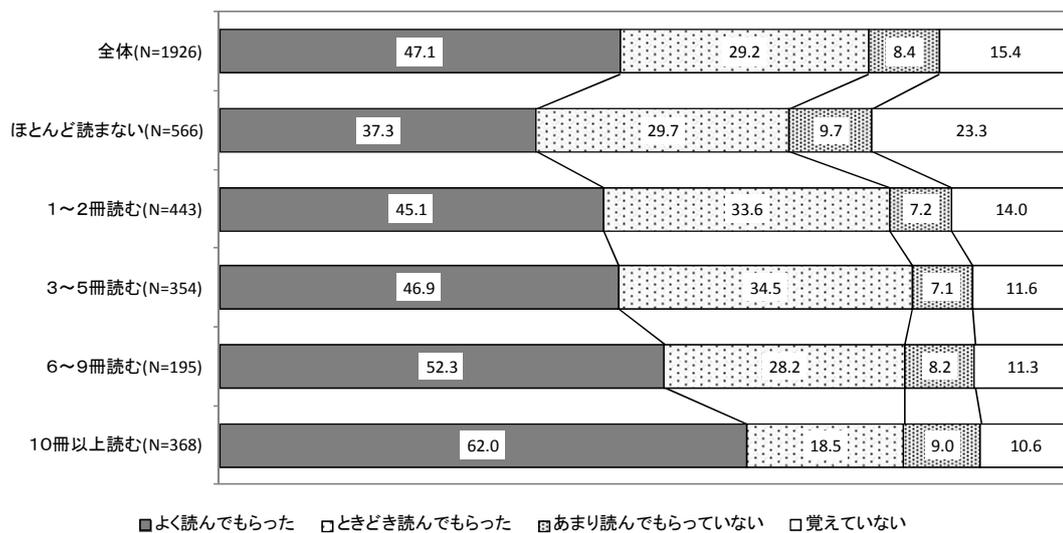
(%)



質問1-1：1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか？ ×質問8：幼稚園や保育園のころ、家の人に本を読んでもらいましたか？

本を多く読んでいる子どもの方が、幼稚園や保育園のころ、家の人によく本を読んでもらっていた傾向がある。

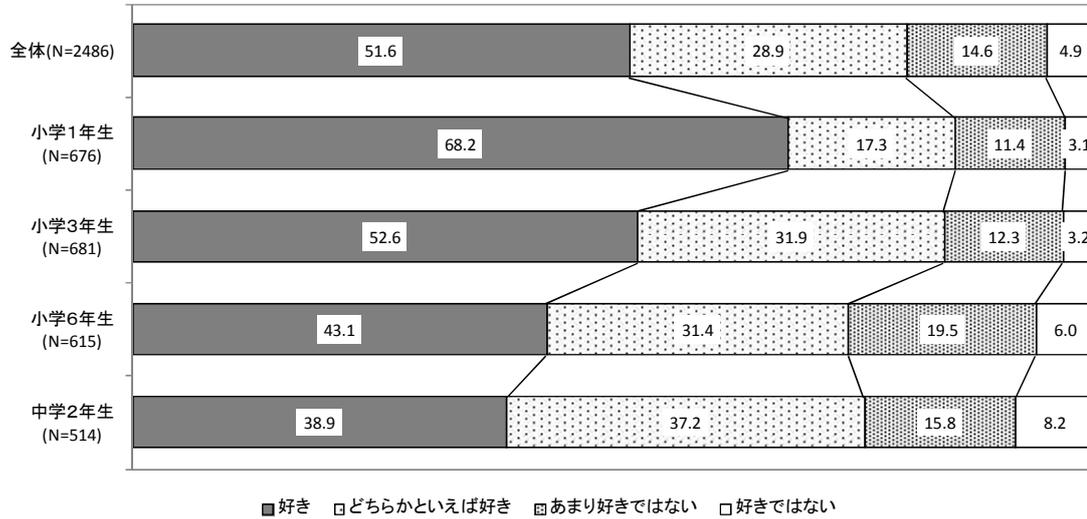
(%)



質問9:あなたは本を読むことが好きですか？

全体としては、「好き」が5割を超えている。年齢が上がるにつれて「好き」が減少する傾向がみられる。平成23年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

(9%)



2. 市民団体、関係機関へのヒアリング

市内で活動する子どもの読書活動に関係する団体、関係機関にヒアリングを行った。

(1)ヒアリング対象

- ・長久手点字サークル
- ・朗読の会 吾亦紅（われもこう）
- ・レディバグ
- ・子ども達の幸せを願う会 クレヨン
- ・すぎのこ教室

(2)調査結果

<子ども達の自発的な読書を促すには>

- ・子どもの読書環境が大切です。
- ・昔話や名作など、子ども達の情緒を豊かにする話を選んでいろいろなジャンルのお話をする、その中で子どもたちが興味を持ったものを手にとって読んでいくと思います。
- ・この Bigbook を使った reading で関心を持ってくれると思う。
- ・なるべく小さい頃から、親が子どもの興味のあるような絵本を読み聞かせること。
- ・絵本の読み聞かせは、施設で日常的に行っている。発達障がい等のため「おはなしを聞く」ことが苦手な場面は、よく見られるが、「絵本を見ること」は多くの子どもたちが好む。そのことから、絵本などを常に身近に用意し、子どもたちへ読み聞かせの機会を持つことが重要と思われる。

3. 読書活動に関する活動調査

市内に位置する子どもの読書活動に関係がある施設における活動状況を把握、整理した。

(1) 読書に関するデータ

① 児童館

調査項目	所蔵冊数		年間購入冊数		貸出		貸出冊数		年間利用者数	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
館名										
青少年児童センター	2,968	3,054	△	24	○	○	—	882	1,209	300
下山児童館	2,395	2,699	52	99	○	○	—	77	62	23
長久手西児童館	2,500	2,300	20	33	○	○	—	100	350	30
長久手南児童館	2,100	1,200	12	15	○	○	—	360	50	120
上郷児童館	3,322	1,618	20~30	12	○	○	—	50	478	40
市が洞児童館	—	700	—	217	—	○	—	506	—	200

調査項目	「読み聞かせ」もしくは「おはなし会」		児童館だよりの年間発行回数		児童館だよりの読書活動に関する記載	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28
館名						
青少年児童センター	○	○	12	14	○	○
下山児童館	○	○	12	12	×	×
長久手西児童館	○	○	12	12	×	×
長久手南児童館	○	○	12	△	×	△
上郷児童館	○	○	12	12	○	○
市が洞児童館	—	—	—	12	—	○

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

② 子育て支援センター

調査項目	所蔵冊数		年間購入冊数		貸出		貸出冊数		年間利用者数	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
館名										
子育て支援センター	811	366	23	22	○	○	350	387	155	157

調査項目	「読み聞かせ」もしくは「おはなし会」		子育て支援センターだよりの記載	
	H23	H28	H23	H28
館名				
子育て支援センター	○	○	○	×

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

③ 保育園

調査項目 園名	所蔵冊数		年間購入冊数		貸出		貸出冊数	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
上郷保育園	1,020	1,288	110	80	○	○	—	4,536
色金保育園	2,000	1,977	30	60	○	○	—	7,778
長湫東保育園	1,870	1,524	80	60	○	○	—	159
長湫西保育園	2,469	2,760	150	150	○	○	—	5,054
長湫南保育園	1,174	1,300	10	150	○	○	—	3,100
長湫北保育園	1,000	1,280	70	220	○	×	—	×
市が洞保育園	—	300	—	50	—	×	—	×
A 保育園	—	350	—	50	—	○	—	150
B 保育園	—	730	—	80	—	×	—	×
C 保育園	—	377	—	85	—	×	—	×
D 保育園	—	250	—	60	—	×	—	×

調査項目 園名	「読み聞かせ」もしくは 「おはなし会」		園だより	
	H23	H28	H23	H28
上郷保育園	○	○	○	○
色金保育園	○	○	○	○
長湫東保育園	○	○	○	○
長湫西保育園	○	○	○	○
長湫南保育園	○	○	○	○
長湫北保育園	○	○	○	○
市が洞保育園	—	○	—	○
A 保育園	—	×	—	○
B 保育園	—	○	—	○
C 保育園	—	×	—	×
D 保育園	—	○	—	○

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

④ 幼稚園

調査項目 園名	所蔵冊数		年間購入冊数		貸出		「読み聞かせ」もしくは 「おはなし会」		児童館だより	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
A 幼稚園	300	2,000	50	216	×	×	×	×	○	×
B 幼稚園	1,450	920	△	10~20	×	×	○	○	○	○
C 幼稚園	500	400	23年度 購入無	10	○	×	×	×	○	○

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

⑤小学校

調査項目	学級数		所蔵冊数		学校図書館図書標準 (冊)		年間購入冊数		貸出	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名										
長久手小学校	21	19	9,941	10,826	10,960	10,820	797	560	○	○
西小学校	16	16	10,311	10,227	9,560	10,199	519	471	○	○
東小学校	8	11	7,788	9,275	6,040	9,275	579	435	○	○
北小学校	24	27	10,368	11,929	11,560	11,915	899	574	○	○
南小学校	23	19	9,719	12,035	11,360	12,007	784	548	○	○
市が洞小学校	28	33	13,200	15,572	12,360	15,215	650	768	○	○

調査項目	司書教諭		学校司書		学校連携司書		「読み聞かせ」 もしくは「おは なし会」		朝の読書運動	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名										
長久手小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○
西小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	×	○
東小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○
北小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○
南小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○
市が洞小学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○

調査項目	読書感想文募集		読書画募集		図書館だより		年間貸出冊数	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H27	H28
学校名								
長久手小学校	○	○	○	○	×	△	22,469	19,563
西小学校	○	○	○	○	○	○	27,085	21,775
東小学校	○	○	○	○	×	○	8,642	11,024
北小学校	○	○	○	○	○	○	25,693	28,233
南小学校	○	○	○	○	○	○	20,938	23,211
市が洞小学校	○	○	○	○	○	○	37,581	43,120

○：実施、×：未実施、△：記載なし、－：新施設または調査未実施

⑥ 中学校

調査項目	学級数		所蔵冊数		学校図書館図書標準(冊)		年間購入冊数		貸出	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
長久手中学校	22	11	12,443	12,834	14,880	10,720	1,188	422	○	○
南中学校	23	21	15,015	14,261	15,200	14,240	900~1,000	657	○	○
北中学校	—	16	—	12,130	—	12,160	—	881	—	○

調査項目	司書教諭		学校司書		学校連携司書		「読み聞かせ」 もしくは「おはなし会」		朝の読書運動	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
長久手中学校	兼任	兼任	○	×	○	○	×	○	○	○
南中学校	兼任	兼任	×	×	○	○	○	○	○	○
北中学校	—	兼任	—	×	—	○	—	×	—	○

調査項目	読書感想文募集		読書画募集		図書館だより		年間貸出冊数	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H27	H28
学校名	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H27	H28
長久手中学校	○	○	×	○	○	○	966	1,796
南中学校	○	○	×	×	○	×	2,244	2,254
北中学校	○	○	—	×	○	×	3,887	4,603

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

⑦ 高等学校

調査項目	学級数		所蔵冊数		年間購入冊数		貸出		司書教諭	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
A高等学校	22	25	19,247	19,954	503	497	○	○	兼任	兼任
B高等学校	—	36	—	13,418	—	300	—	○	兼任	兼任

調査項目	学校司書		読書感想文募集		図書館だより	
	H23	H28	H23	H28	H23	H28
学校名	H23	H28	H23	H28	H23	H28
A高等学校	専任	専任	×	×	○	○
B高等学校	—	兼任	—	×	—	○

○：実施、×：未実施、△：記載なし、—：新施設または調査未実施

(2)自由記述回答の抜粋

①児童館・子育て支援センター、保育園・幼稚園

問1④図書・読書環境についてお気づきのことがあれば記入ください。

- ・図書室の利用者の割りに借りる人数が少ない現状である。
- ・本の大きさによって、棚に整理しづらい。
- ・貸出利用は少ないが、図書室で読む子は多い。幼児親子も絵本を楽しむ姿をよく見る。
- ・最新の育児図書や乳幼児（0～2歳）向けの絵本を購入する予算がなく充足されていない。
- ・保育の中では、1日に2、3回読み聞かせをしている。
- ・他園に比べ所蔵冊数が少ないので、各クラス、特に幼児クラスに100冊以上欲しい。
- ・購入したい本はたくさんあるが、予算の関係で少しずつしか購入できない。市として、子どもたちに本に触れ合う機会があればお願いしたい。
- ・0、1、2歳の園なので本が傷みやすい。

問4 中央図書館との連携事業について、今後の取組や要望を記入ください。

- ・中央図書館に新しく入った本の紹介やお勧め図書などの公開をしてほしい。
- ・幼児や小学生にどんな図書を読んでほしいか、推薦図書を教えてほしい。児童館予算での図書購入に限られるので、貸出を継続でしていただくと良いと思う。
- ・児童館に移動図書館号が来てくれたら子ども達が喜ぶと思います。
- ・乳幼児親子は中央図書館からお借りしている絵本をよく読んでいます。貸出利用も多い。半年後、1年後、本の入れ替えを楽しみにしています。
- ・出前読み聞かせ（スタッフで十分行えるが、「司書さんが」「図書館で」というお楽しみ感が増すため、もちろん本に関してのプロからの言葉がいただけるから）紙芝居もうれしい。おすすめ本（季節など）の情報提供。
- ・子育て支援センターと図書館の直接的な連携事業は行っていない。絵本、育児書、図鑑など、まだ利用できるもので廃棄になるものがあれば譲っていただきたい。
- ・ボランティアの方がお話会に来てくださるとうれしいです。
- ・お話し会に、園よりクラス単位で参加。
- ・大型絵本の貸出。
- ・図書館から読み聞かせをする方に来園していただき、「おはなし会」を定期的で開催してもらおう。
- ・大型絵本など、園にはない本のおはなし会を実施してほしい。
- ・絵本などを持って来て頂いて、園で「絵本の日」のようなイベントが出来れば嬉しい。
- ・定期的におすすめ本を写真つきで教えていただくと、園にて子どもたちに紹介することができます。また、担任が子どもたちに伝えたいとき、そのことがわかる本や紙芝居など、電話にて相談したら教えてもらえるとありがたい。なかなか図書館まで職員が足を運べないため、宅配のように定期便にて季節のおススメなど持参&回収などあったら嬉しいです。図書館より、子どもたち宛てに例えば「好きな本は何ですか？」など、手紙がいただければ、子どもたちに聞けます。
- ・子どもたちとバスに乗って絵本、紙芝居を借りに行けたら嬉しいです。

問5 その他の取組について記入ください。

- ・今年度、小学生を対象に絵本サークルを始めました。
- ・幼児向けの図書の紹介などを兼ねて、読み聞かせに来てもらえるとうれしい。
- ・幼児教室や小学生向けに、読み聞かせボランティアの方に来ていただくと良いと思う。
- ・子どもの制作物の展示等。
- ・移動図書館みたいな取組をして、目的地で読み聞かせをするとかはいかがでしょうか。たとえば園開放に参加して、読み聞かせをする機会とかどうでしょうか。

- ・図書館で借りてきた本を職員が読み聞かせに使ったり、子どもたちが自分たちで読んだりしている。
- ・絵本年間計画を立てている。「読み聞かせ」という言葉は使用せず「読み合う」という意識で本を捉えている。

問6 子どもたちの読書の様子などを記入ください。

- ・本に興味があり、読書が好きな子たちはもちろんだが、遊びの中で友達とうまく意思疎通ができなかったりした子が、心を落ち着かせる時等にも読書をしている姿がみられる。また、友達と一緒に紙芝居を読みあつたり、なぞなぞを出し合ったりして楽しんでいる姿も見られる。
- ・児童たちは、下校後、気分転換にマンガ本を利用することが多い。
- ・普段は本が大好きな子どもが、読んでも気がつかないくらい集中して読んでいる。長期休みの時は、開館から10時まで図書室で勉強したり本を読んだりして過ごしている。
- ・ソファでくつろいだ様子で好きな本をみている。
- ・夏休みなど学校の長期休みは、午前8時30分開館します。開館後約1時間は清掃のため、図書室で本を読んで過ごす子が多い。
- ・小学生は、本離れがあるかもしれない。
- ・読み聞かせの時間を設定して、毎日2冊程読んでいる。0歳から2歳までと来館する子どもの年齢層に幅があり、どの年齢に照準を合わせたら良いのか悩ましいところがあるが、親子共々定着してきた感じはある。親御さんの絵本に対する意識の問題が大きく左右されると思う。
- ・保育園で食後や活動の合間に絵本を見ることが多いです。いつでも手にとって見ることができるようにしている。
- ・好きな絵本などを取り出して自ら見ている。または、大人（保育士やボランティアさんなど）に読んでと言って持ってくる。
- ・保育士による読み聞かせから子ども達は絵本に親しみ、食後や遊びの中でも読みたい時に見ています。また図鑑など友達とおしゃべりしながらみえています。
- ・お気に入りの絵本を自分で取りだして見ている。友達と一緒に好きな絵本のページをめくり、あらすじを楽しみながら見ている。
- ・絵を見て楽しむことや、読んでもらってお話の面白さに気付いていき、お気に入りの一冊になっていくと思います。
- ・毎日幼児クラスには本を読む時間を設けているため、年間を通して字を覚え、音読できるようになっている。乳児クラスのお子様たちも毎日たくさん絵本の読み聞かせを通して言葉を覚え、言語の発達に活かされている。
- ・日常的な保育の中で、絵本の読み聞かせは意識的に行っている。絵本が好きな子が多く、集中してよく聞き、内容の理解も良い。読んでもらうことだけでなく、自分で好きな本を選び、読む（みる）こともよくやっている。
- ・乳児（2歳前半まで）本物の本は大人と一対一で読む。ラミネート（カラーコピー）は子どもたちが読んでOK。2歳後半～本物の本を自分たちで読む。
- ・0歳、1歳は自分で目で見て楽しんだりもするが、読み聞かせをするとしっかり聞ける子が多い。2歳児は自分でも絵を見ながら楽しんだり、しっかり読み聞かせをすることができる。
- ・担任が読み聞かせしたり、給食後や雨の日に、見たい子が自分で絵本を読んでいます。また、自宅より、クラスの子に披露したい本や自分が見たかったり調べたい本を持参する子もいます。一人で見たり、友達と本を囲んでみたり、大人へ読んでとせがんだり、個性が出ます。
- ・年齢によって絵だけを見る子、一人でじっくり読む子、子どもたち同士で読み聞かせをしている子、絵本屋さんごっこをしている子がいます。

問7 子どもたちの自発的な読書を促すために、大切だと思うことを記入ください。

- ・本を探しやすいように、ジャンル分けして見やすく並べたり、子どもたちに人気があるシリーズものを足したりして環境を整える。また、日頃の会話の中でも本の話題を出したりして、周りの大人が読書の楽しさを知らせたり、子どもたちの考えを受け止め、気持ちに共感することで意欲へと促していく。
- ・図書室での快適な読書のために、室内環境を整えることが望ましいと思う。
- ・推薦図書を知らせたり、展示の仕方を工夫する。破れなどの修理をし、手に取りやすいようにきれいな状態にする。小学生向けの読み聞かせの実施。
- ・子ども達の興味をひくような本をそろえておくことが大切だと思います。
- ・話題のある本や子ども達の興味を引く本を面出しして並べる。
- ・興味をひくレイアウト、ポップなど？司書さん、スタッフが良いと思っている本を置いているので、多くの方に手にとっていただけるよう工夫したいのですが。小学生以上にもっと読んでほしいです。
- ・日常生活の中で、絵本の読み聞かせが家庭の中で実施されること。たとえ1冊でも子ども達の生活の中に、大人による読み聞かせが定着できたらよいと思う。
- ・保育園での読み聞かせを通して日頃から本（絵本）に親しめるように環境を整えている。
- ・常日頃から、こまめに読み聞かせの時間を持ち、楽しさが味わえるようにしておくこと。
- ・大人が本好きになること。スマホの動画視聴を子どもにさせないこと。
- ・子ども達が本の楽しさを知り、もう一度見たい、自分でも読んでみたいという気持ちにつながるように保育士がいろいろな本を読み聞かせる。
- ・大人が本や絵本の面白さに気付き、読む習慣があることが大切だと思います。）
- ・毎日ルーティンである程度時間を決めて読書の時間を設ける。自由に本が読める、見れる環境を作る。
- ・幼い頃から本に親しみ、大人に読んでもらう体験を質的にも量的にも十分に与えていくことが、自発的な読書へ繋がっていくと考えている。一人で読む（文字を追う）ことを焦らない。
- ・乳児期（0～2歳前半）までに、自分のためだけに本を読んでももらう経験、大人が子どもの発達に合った良い本を選ぶこと。
- ・目の届く場所に本を置いてあげること。手に取りやすくしてあげること。
- ・絵本に触れる機会はもちろんですが、（面白いと思うと読みたくなる）子どもにも大人にも目でみてわかるように、本を紹介する機会を意識的に作る。また、大人へチラシなどで読みたくなる、心が動くものがあると、子どもたちへつなげたいと思う。
- ・大人が積極的に読み聞かせをしてあげて「本が大好き！楽しい！」と思ってもらえたら、子どもも自然と絵本に触れる機会が増えると思います。

②小学校・中学校

問1 図書・読書環境についてお気づきのことがあれば記入ください。

- ・習い事とゲームで忙しく、家で読書をする環境にない。
- ・学校で足りない本を、図書館から補充してもらい、調べ学習の本が充実している。学校連携司書による、工夫された掲示物によって読書を促す効果が高まっている。
- ・本の内容は大変充実しています。

問3⑤その他の取組について記入ください。

- ・年3回の読書まつり。ボランティアによる朝読みと休み時間の読み聞かせ。
- ・読書郵便、多読賞、図書委員による図書クイズ。
- ・学校連携司書による読書指導。
- ・図書館まつりの実施。たて学年による6年生の読み聞かせ。

- ・学期に1回読書週間として図書室で様々な催しを行っています。(先生のおすすめ図書紹介、図書クイズなど)。

問4 児童生徒の読書の現状などを記入ください。

- ・5のつく日を楽しみに教育相談週間2冊貸し出しを楽しみにしている。
- ・読書が好きで、小説をしっかり読み込んでいる児童と、あまり読んでいない児童との差が大きい。また、よく本を借りている児童でも、マンガになっているものを読んでいることが多い。
- ・貸出や来館がなく、読書の時間以外で全く本に触れていない児童が1割ほどいる。
- ・休み時間になると進んで本を借りに来る児童が多いが、学年が上がるにつれて、減少傾向にはある。ただし、もともと本を読むことが好きな子は図書室の本だけでなく、学級文庫や自分の家の本など様々な本を読んでいる。
- ・司書の方の長年の指導の成果が出て、内容のしっかりした本を借りていく児童が増えている。
- ・読む子と読まない子の差は大きい。読み聞かせ等はみんな好きで、真剣に聞く。高学年になると忙しいせいか、本離れの傾向がある。
- ・読書をする生徒とそうでない生徒の差が激しいです。読み聞かせが好きで、年に1度ですが好評です。
- ・おすすめの本などよく聞かれます。おすすめする本以外では、歴史マンガなどを図書室で読んでいる生徒が多いです。読みたい本があって(決まっていて)、借りてすぐ出て行く生徒も多いです。
- ・中学生は自分の興味のあることに選書が偏りがちである。

問5 中央図書館と学校の連携事業について、今後の取組や要望を記入ください。

- ・読書の質を高めるような本の選定、推進をお願いしたいです。
- ・司書さんは他校の様子などもよくご存知なので、良い情報等を提供してほしい。こういうことがしたいという要望、提案なども逆に出していただけると有難い。
- ・司書によるブックトークやストーリーテリングなど読み聞かせより、専門的なこと。読書指導(お話ランド・読書支援プログラム)の新しい、より良い取組みの研究・実践。教師への提案(調べ学習で良い本がある、とか国語の関連書籍など)。選書。調べ学習の本で学校では足りない場合の図書館からの貸し出し。教師とは違った存在として、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取ってほしい。(図書室に通ってくる子たちのホッとできる存在)。
- ・授業や行事等で必要なものが相談出来、とても助かっています。
- ・学校の教諭と司書さんの時間(打ち合わせや相談など)を確保すること。
- ・おすすめ本を紹介していただいたりしているので、昼放課や生徒がいる時間に毎日いて下さるとありがたいです。
- ・学校司書の1日配置と資料の共有化。

問6 児童生徒の自発的な読書を促すために、大切だと思うことを記入ください。

- ・本に興味をもたせること。
- ・読書のおもしろさ、良さを知るために、読書が定着するまでは読む時間、本を借りる時間の確保が必要であると思う。担任が読書を話題にしたり声掛けをするなど、担任の力が大きい。
- ・読書できる環境、時間を提供すること。面白い本と出会う機会を作ること。
- ・一人一人の児童誰にでも読みたい本があるように、多くの本を常に学校、教室に置いておくことだと思います。
- ・良い本を与えること。読む時間を確保すること。図書室の環境整備。友達や先生などによる本の紹介活動(本の帯など)。司書によるブックトークなど読書指導。
- ・本の選定→興味をわく本。読書時間を確保することにより、読書が習慣化でき、自ら読もう!という姿勢がもてるようになるとういと思う。

- ・良い本と、それを手渡したり紹介したり、一緒に読んでくれる人の確保。
- ・どんな本が面白いかわからず手に取っていない子も多いので、本の紹介や本の内容に触れる機会を増やすことや、生徒自身に時間の余裕があることも大切だと思います。
- ・読書案内と蔵書の充実。

③高等学校

問1④図書・読書環境についてお気づきのことがあれば記入ください。

- ・高校の学校図書館の平均蔵書数が約 23000 冊です。館内には生徒の蔵書検索性 PC 2 台と、インターネット利用の PC 2 台、計 4 台の PC を設置しています。

問3③その他の取組について記入ください。

- ・特集、展示。国際交流会。図書館文化講座。読書月間。ウィンターフェア。読書感想文コンクール優秀作品校内朗読放送。
- ・図書委員によるおすすめ本の紹介（図書館だより内）・POP の作成。毎月テーマを決めた企画展示。読書感想文おすすめ本の展示とその本についての紹介。読書カードの作成（3冊読んだ生徒に雑誌の付録プレゼント）昨年度実施。先生のおすすめ本の展示。クラスにもよるが、朝読を行っているところもある。授業（主に国語・社会科）やHRでの利用。

問4 生徒の読書の様子などを記入ください。

- ・あまり読書をする習慣がなく、文字を読むのが苦手だという生徒が少なくないです。しかし、授業で利用するとほとんどの生徒が静かに読書を楽しんでおり、その後図書館に通うようになった生徒もいます。興味がないわけではなく「図書館に来るきっかけ」があまりないのかも知れません。受験シーズンが近づくと、小論文や面接、勉強法の本、メンタルヘルスケアの本が多く貸出されます。図書室によく来る生徒には、ミステリーやライトノベル、ライト文芸が人気です。また、最近のゲームやアニメの影響らしく、文豪の作品や世界の神話や偉人、刀の本などもよく貸出があります。

問5 生徒の自発的な読書を促すために、大切だと思うことを記入ください。

- ・幼児期からの継続した読書環境。
- ・元々本が好きで図書館に来る生徒以外は、課題、授業、受験などで必要に駆られて来る生徒がほとんどです。そのような、初めて図書館に来る生徒をどう繋ぎとめるのが大切だと思っています。そのため、映像化したり、話題になったものは目立つPOPを付けたり、新しい本は出来るだけ表紙を向けて置くようにしています。他には、イベントを行うことで普段図書館に来ない生徒を呼び込めるように工夫をしています。また、直接生徒に現在の流行や読みたい本などを聞いてみると様々な発見があるかと思います。各授業での本の紹介も効果的なようです。

問6 中央図書館に要望があれば記入ください。

- ・貴館では、ボランティア団体への団体貸出が行われているようですが、学校への団体貸出や、テーマに合わせた資料をまとめた学習支援セット等があると助かります。これからも引き続き情報交換を行い、交流を深めていけたら嬉しく思います。

調査票

アンケート調査票（3歳児・5歳児用）

保育園5歳児用

子どもの読書についてのアンケート（長久手市中央図書館）

図書館では、子どもたちがよい本をたくさん読めるようになるための計画づくりを進めています。このアンケートはそのために役立てたいと考えています。ご協力をお願いします。

※この調査でいう「本」は、学習参考書、マンガ（コミック）、雑誌を除きます。

第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会
事務局 長久手市中央図書館 TEL0561-63-8006

●以下の質問について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

質問1	お子さんに絵本を読んであげる時間を、どの程度もっていますか？
	1. 毎日 2. 週3～4回 3. 週1～2回 4. 1か月に2～3回 5. ほとんど読まない
質問2	お子さんは本が好きですか？
	1. 好き 2. どちらかというと好き 3. あまり好きではない 4. 好きではない
質問3	あなた自身は本が好きですか？
	1. 好き 2. どちらかというと好き 3. あまり好きではない 4. 好きではない
質問4	中央図書館や児童館などの図書室を、どの程度利用していますか？
	1. 毎週 2. 月に2～3回 3. 月に1回 4. 数か月に1回 5. あまり利用していない
質問5-1	中央図書館や児童館などでおはなし会が開催されていますが、参加したことはありますか？
	1. 参加したことがある 2. 参加したことはない
質問5-2	質問5-1で「2. 参加したことはない」と回答した方にお尋ねします。あなたがおはなし会に参加したことがない理由は何ですか。（複数回答）
	1. 知らなかった 2. 忙しくて行けない 3. 時間等、日程が合わない 4. 遠い 5. その他（ ）
質問6	お子さんの本をどのようにして手に入れてありますか？（複数回答）
	1. 買う 2. 保育園・幼稚園で借りる 3. 中央図書館で借りる 4. 児童館で借りる 5. 家にある本を読んでいる 6. もらう 7. ほとんど借りないし、買わない 8. その他（ ）
質問7	本と親しむことは、お子さんの成長に必要と思われますか？
	1. 必要である 2. どちらともいえない 3. あまり必要ではない
質問8	お子さんが本を好きになるために、ご家庭で何か工夫をしていますか？（複数回答可）
	1. 寝る前に読むなど読み聞かせの時間を作る 2. 「読んで」と言われた時になるべく読む 3. 子どもの手にとれる所に本が置いてある 4. 読むときはテレビを消す 5. 図書館などで自分で本を選ばせている 6. 子どもが気に入った本を買う 7. 図書館・児童館などの図書室へよく行く 8. 本屋へよく行く（インターネット書店をよく見る） 9. せがまれたら同じ本を何回も読む 10. その他（ ）

これでアンケートは終了です。 **12月5日（火）までに保育園の回収ボックスへ提出**してください。
—ご協力ありがとうございました。—

こ ども の 読 書 に つ い て の ア ン ケ ー ト (長 久 手 市 中 央 図 書 館)

このアンケートは、みなさんがもっと本を読みやすくするために
 行うものです。質問を読み、考えて
 答えてください。なお、このアンケートでは「本」は、学習参考書、マンガ(コミック)、雑誌
 ではありません。学校などの図書館にある本のことです。

しつもん
質問
1-1

1か月にだいたい何冊くらい本を読みますか?
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

- 1. ほとんど読まない
- 2. 1~2冊読む
- 3. 3~5冊読む
- 4. 6~9冊読む
- 5. 10冊以上読む

しつもん
質問
1-2

「ほとんど読まない」と答えた人はどうしてですか?
 (一番あてはまるもの1つに○をつけてください)

- 1. テレビ、ゲーム、インターネットの方がよ
いから
- 2. 友達と遊びたいから
- 3. 習い事で忙しいから
- 4. マンガ(コミック)や雑誌を読みたいから
- 5. どんな本を読んだら良いかわからないから
- 6. 読みたい本がないから
- 7. 字がたくさんあると読むのが大変だから
- 8. 本を読むのがめんどうだから

しつもん
質問
1-3

「読む」と答えた人におたずねします。あなたが、本を読むのはどうしてですか。
 (一番あてはまるもの1つに○をつけてください。)

- 1. 楽しいから
- 2. 知らないことがわかるから
- 3. 感動できるから
- 4. 友達との話題になるから
- 5. 勉強に必要だから
- 6. 家族も本を読むのが好きだから

しつもん
質問2

どんな本が好きですか?あてはまるものすべてに○をつけてください。
 「その他」を選んだ人は()の中にわかりやすく答えを書いてください。

- 1. 図鑑・コンピュータ
- 2. 歴史・地理
- 3. 伝記
- 4. 理科・算数
- 5. 料理・手芸
- 6. 工作・音楽
- 7. スポーツ
- 8. 物語
- 9. 推理・怖い話
- 10. 絵本
- 11. その他()

(アンケートは、裏側に続きます)

質問3

あなたは、**どんなきっかけ**で本を読むことが多いですか？あてはまるもの2つに○をつけてください。「その他」を選んだ人は（ ）の中にわかりやすく答えを書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 本屋・インターネット書店で見た | 2. 学校の図書館・学級文庫で見た |
| 3. 中央図書館で見た | 4. 児童館・児童クラブ・学童保育で見た |
| 5. 新聞や雑誌で見た | 6. テレビやインターネットで見た |
| 7. 家族にすすめられて | 8. 先生にすすめられて |
| 9. 友だちにすすめられて | 10. その他（ ） |

質問4

どこの本をよく読みますか？あてはまるもの1つに○をつけてください。「その他」を選んだ人は（ ）の中にわかりやすく答えを書いてください。

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 学校の図書館 | 2. 学級文庫 |
| 3. 中央図書館 | 4. 児童館・児童クラブ・学童保育 |
| 5. 自分の家の本 | 6. 友だちの本 |
| 7. その他（ ） | |

質問5

あなたは、1か月のうち**学校の図書館**へ何回行きますか？
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | | |
|-----------|---------|-----------|
| 1. 行かない | 2. 1回 | 3. 2回から3回 |
| 4. 4回(毎週) | 5. 5回以上 | |

質問6

あなたは、1か月のうち**中央図書館**へ何回行きますか？
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | | |
|-----------|---------|-----------|
| 1. 行かない | 2. 1回 | 3. 2回から3回 |
| 4. 4回(毎週) | 5. 5回以上 | |

質問7

中央図書館で配布している「**読書手帳**」を知っていますか？
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問8

幼稚園や保育園のころ、**家の人**に本を読んでもらいましたか？
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | | | |
|------------------|--------------------|----------------------|-----------|
| 1. よく読んで
もらった | 2. ときどき読んで
もらった | 3. あまり読んで
もらっていない | 4. 覚えていない |
|------------------|--------------------|----------------------|-----------|

質問9

最後の質問です。あなたは**本を読む**ことが好きですか？
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | | | |
|-------|---------------|--------------|-----------|
| 1. 好き | 2. どちらかといえば好き | 3. あまり好きではない | 4. 好きではない |
|-------|---------------|--------------|-----------|

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

子ども読書活動推進計画策定にかかる団体ヒアリングシート

【基本事項】

記入者		記入日時	
ヒアリング対象者名		ヒアリング団体名	
代表者名及び連絡先			

【質問事項】

①設立年月	②構成員の状況
() 年 () 月	構成員 () 人 内 男性 () 人 女性 () 人 構成員の平均年齢 () 歳くらい
③主な活動場所	④活動内容（取り組み、活動頻度）
1 長久手市の一部 () 2 長久手市の全域 3 長久手市および隣接市町村	
⑤活動の対象	⑥活動頻度
⑦結成動機	
⑧活動を通してうれしかったこと	

⑨課題・苦勞していること

⑩子どもたちの自発的な読書を促すには

⑪図書館への要望

【その他】

子ども読書活動推進計画策定にかかる関係機関ヒアリングシート

【基本事項】

記入者		記入日時	
ヒアリング対象者名		ヒアリング関係機関名	
代表者名及び連絡先			

【質問事項】

①構成員の状況	②関係機関の事業概要
構成員（ ）人 内 男性（ ）人 女性（ ）人 構成員の平均年齢（ ）歳くらい	
③利用者の対象及び人数	④利用者の状況
⑤子どもたちの自発的な読書を促すには	
⑥図書館への要望	
⑦その他	

読書活動推進に関する活動調査

第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会

事務局 長久手市中央図書館

施設名：

● 以下の調査項目について、ご回答をお願いします。（平成28年度実績）

※記入もしくは○印を付けて下さい

問1 図書について

①所蔵冊数 ⇒ () 冊

②年間購入冊数 ⇒ () 冊

③貸出 ⇒ (i) 行っている ⇒ 貸出冊数 ⇒ (年間) 冊
 貸出期間 ⇒ (1回につき) 日間

(ii) 行っていない

④図書・読書環境についてお気づきのことがあれば記入ください。

問2 「読み聞かせ」「おはなし会」等について

①行っている ⇒ メンバー（実行者）について

⇒ (i) ボランティア

(ii) 職員

(iii) その他 ()

②行っていない

問3 「保育園・幼稚園だより」等PR紙の発行について

①発行している ⇒ 年 () 回 ⇒ 読書活動に関する記載 ⇒ (i) 掲載している

(ii) 掲載していない

②発行していない

裏面へ

問4 中央図書館との取組について、できること等を記入ください。

--

問5 その他の取組について記入ください。

--

問6 子どもたちの読書の様子などを記入ください。

--

問7 子どもたちの自発的な読書を促すために、大切だと思うことを記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

主な施策と取組関係部署一覧

基本目標 I 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

重点施策	取組		担当課
1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進	1	乳幼児期からの読書活動の支援	中央図書館 健康推進課
	2	家庭読書の支援	中央図書館
	3	地域の読書活動の支援	
2 中央図書館における子どもの読書活動の推進	1	良質な図書の収集	中央図書館
	2	声かけレファレンス	
	3	中央図書館がより身近な存在となる事業の企画	
	4	図書ボランティアとの協働	
	5	児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施	
3 児童館などにおける子どもの読書活動の推進	1	中央図書館からの図書貸出	中央図書館 子育て支援課
	2	ボランティアによる読み聞かせ	
4 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進	1	保護者などに読書活動の大切さを周知	中央図書館 子育て支援課
	2	読書と遊びを結びつけた取組	
5 学校における子どもの読書活動の推進	1	学校連携司書の派遣	中央図書館 教育総務課
	2	学校連携司書による調べ学習の補助	
	3	学校連携司書による読書案内	中央図書館
	4	学校連携司書による企画展示	

基本目標Ⅱ 子どもの読書環境の整備・充実

重点施策	取組		担当課
1 中央図書館のサービスの充実	1	子どもの発達段階に応じた読書環境づくり	中央図書館
	2	中高生向けの図書の充実、読書環境づくり	
	3	ホームページを通じた情報発信	
	4	障がいのある子どもへのサービス	
	5	中央図書館からやや離れたの地区に住む子どもたちへの読書環境づくり	
2 児童館の読書環境の整備・充実	1	児童館利用者への本の紹介	中央図書館 子育て支援課
	2	児童館図書室の環境整備	
3 保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実	1	園内の図書コーナーの整備	中央図書館 子育て支援課
	2	団体貸出登録	
4 学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実	1	学校図書館の環境整備	中央図書館 教育総務課
	2	中央図書館資料の学校への提供	
	3	学校連携司書による中央図書館の行事企画	中央図書館
	4	学校図書館と中央図書館の情報共有	中央図書館 教育総務課

基本目標Ⅲ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

方策	取組		担当課
1 普及活動の充実	1	読書手帳の普及	中央図書館
	2	「子ども読書の日」などの普及	
1 普及活動の充実	3	保護者への周知	中央図書館 教育総務課 子育て支援課
	4	各施設で読みきかせイベントなどの実施	中央図書館
2 各種情報の収集・提供	1	図書情報などの収集・提供	中央図書館
3 優れた取組の紹介	1	図書ボランティアなどの活動を紹介	中央図書館

第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づき、第2次長久手市子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）を策定するため、第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 第2次長久手市子ども読書活動推進計画の策定に関すること。
- (2) その他推進計画策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から推進計画の策定が終了する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会を総理し、会議の議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、又は委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が必要と認めたとき招集し、委員長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、賛否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は説明若しくは意見を述べさせることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会中央図書館において処理する。

(補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

付則

この要綱は、平成29年12月19日から施行する。

別表（第3条関係） 第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会委員

職名	氏名	所属	備考
委員	1	学識経験者	大学教職員
委員	2	学識経験者	大学教職員
委員	3	小中学校関係者	司書教諭
委員	4	保育園関係者	保育士
委員	5	中央図書館図書ボランティア	読み聞かせボランティア
委員	6	公募市民	長久手市民
委員	7	公募市民	長久手市民

第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定委員会 委員

職名	氏名	役職等	備考
委員長	浅石 卓真	学識経験者	愛知淑徳大学 人間情報学部 助教 専門：図書館情報学
副委員長	青木 文美	学識経験者	愛知淑徳大学 福祉貢献学部 准教授 専門：児童文学
委員	早川 政枝	小中学校 司書教諭	学校連携事業関係者 市立南小学校司書教諭 (市内学校に3年以上在職)
委員	加藤 七保美	保育園関係者	子育て支援課(指導保育士)
委員	鈴木 節子	中央図書館読 み聞かせボラ ンティア	図書館での経験年数が10年以上 のボランティア
委員	須山 亜由美	公募市民	
委員	松本 太一	公募市民	

第2次計画策定の経緯

平成29年

9月～11月 団体等ヒアリング

市内4団体、1機関

11月～12月 アンケート実施

3歳児、5歳児の保護者

小学1, 3, 6年生 中学2年生の児童生徒

図書館ボランティア、児童館、子育て支援センター

保育園、幼稚園、小中学校、高等学校等の団体、関係機関

12月 第2次長久手市子ども読書活動推進計画第1回策定委員会 (12/21)

第2次長久手市子ども読書活動推進計画の策定について

平成30年

1月 第1回 ワークショップ(1/27)

テーマ:「子どもと読書」家庭や地域でできること

2月 第2回 ワークショップ(2/3)

テーマ:子どもに読書の楽しみを伝えるためには

第2次長久手市子ども読書活動推進計画第2回策定委員会 (2/13)

第2次長久手市子ども読書活動推進計画の素案提示

平成29年度第2回長久手市中央図書館運営協議会(2/20)

第2次長久手市子ども読書活動推進計画の素案提示

3月 市民意見公募(3/20～4/20)
(パブリックコメント)

パブリックコメント説明会(3/31)

第2次長久手市子ども読書活動推進計画第3回策定委員会(3/15)

第2次長久手市子ども読書活動推進計画策定(案) 報告